

東方の尿の合同です。

（二度目の失敗）

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

街角麻婆豆

...見んなよお

ぐすッ

子ヨロ子ヨロ
子ヨロ子ヨロ...

ねえ、本当にここで
おしっこして大丈夫なの？
なんか溜まってるんですけど……

大丈夫♪大丈夫♪
ゴポゴポ言いつてるし、
ちゃんと流れるわよ。

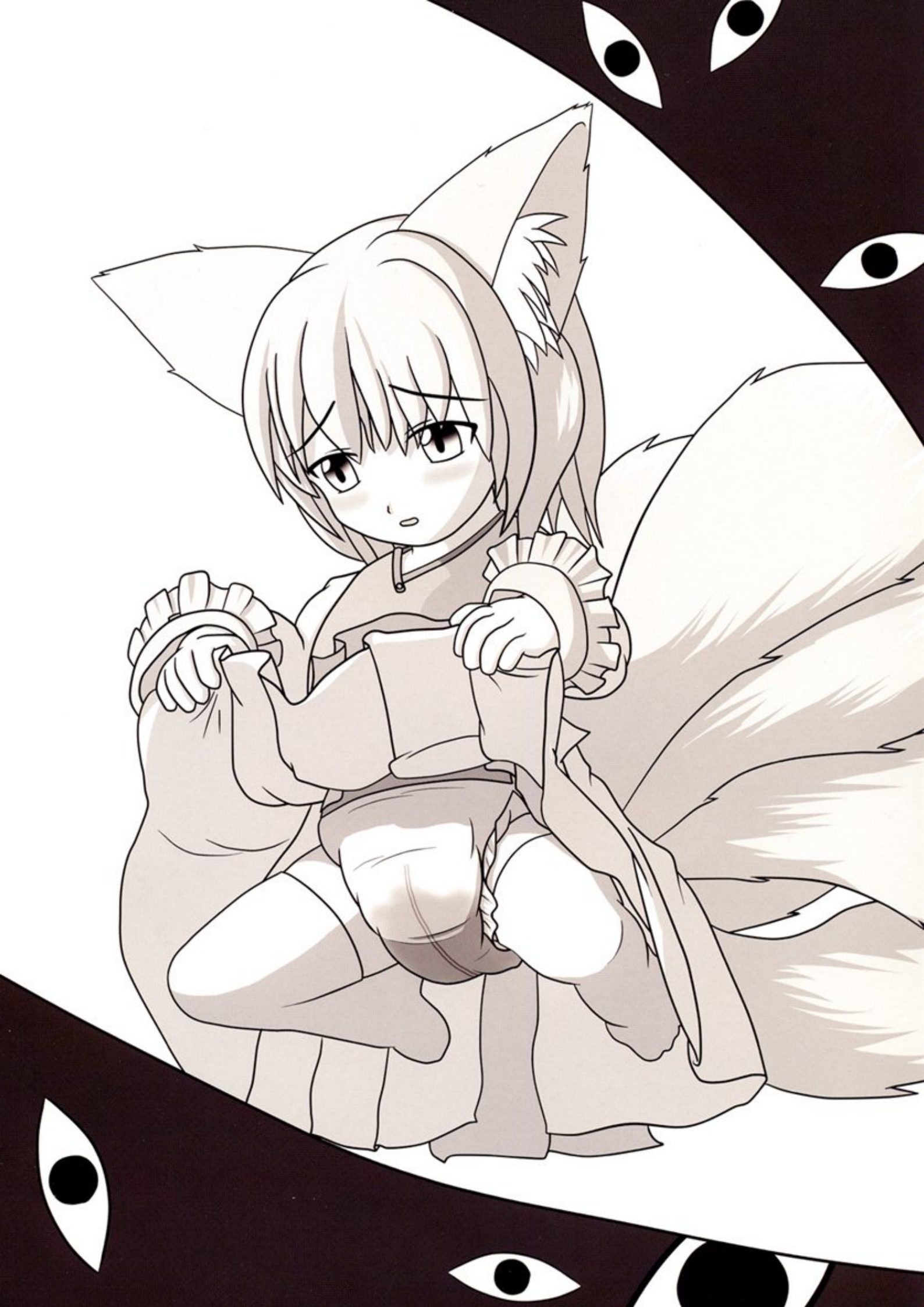
じゃあお言葉に
甘えさせてもらうわ。

Nijusei presents by Kanchela

I thought Alice is willing to drink urine. ...

<http://kanchikinps.web.fc2.com/>

























春画の部

- 01 - 上目づかいは反則だと思う / どっとあーる
- 02 - アリスにたくさんお水を飲ませてみた。 / Kanchela
- 03 - おしっこ臭いなんて思わないでください / あすびな
- 04 - お漏らしバグ緊急修正パッチ / シュージ
- 05 - お漏らしレミイ / セイ
- 06 - ペットのトイレの騷 / ちかど
- 07 - そんな尿で大丈夫か? / れな
- 08 - 早苗さんしーしー / とりちよ
- 09 - 諏訪子おもらし / とりちよ
- 10 - そらのもらしもの / みさな
- 11 - 畳の染みは… / 葦月
- 12 - フランちゃん脅してみたらもらしたW W W W W / 紅白のかまぼこ
- 13 - 妹紅の跡をつけてみたら / 水元てう
- 14 - おもらしぬえちゃん / 大嘘

もくじ

漫画の部

- 17 - うさぎの天然水 / あらりい
- 21 - アリスにたくさんお水を飲ませてみた。 / Kanchela
- 25 - 延喜元年のアンチエイジング / ちゃむべい
- 29 - 文のカリスマトイレ訪問記 霊夢編 / のーびる
- 31 - 今日より明日より尿が欲しい / 天川銀河
- 35 - もれちゃう☆小傘ちゃん / 春日雪人
- 39 - あまりにも気持ちよさそうに寝ていたのでちょっとだけイタズラしてみただけなんだからね!! 漫画 / 菊岩モンジ
- 40 - 起きたら縮んでるんですけど
何やらかしたんですかツツツ! / ゆからんのすけ
- 44 - 博麗ちゃんトイレを洋式にす。 / 秋庭かな

～二度目の失敗～

東方の尿
の合同です。

尿の東方の

～二度目の失敗～

の合同です。

文学の部

- | | | | | | |
|----------------|---------------|------------|-------|-------|--|
| 78 | 76 | 66 | 61 | 56 | 46 |
| …… | …… | …… | …… | …… | …… |
| 副主催からの無駄に長いご挨拶 | 幻想少女たちの尿考察簡易版 | 少女たちの欲しいもの | ひとり遊び | 船長急患場 | 射命丸あややややーと愉快的仲間達(主に河童)の
温☆泉☆放☆尿レポート
尿見たいよ尿 |
| | 中雑魚酒菜 | 大崎屋平蔵 | ハットリ | かずひろ | がお☆ゆん |
| ハットリ | | | | | |

もくじ

うさぎの天然水



今宵はとんぷ手で
鈴仙を可愛がっちゃうおつかいっ
こないでは帰って入里に放り出したけど



永琳様、こんなのは
如何でしようかウサ?

うさぎの天然水



まったく…
鈴仙ときたら弛んでるわね
今日は大事なお使いが
あるのに寝坊なんて…

師匠あつみません
寝坊しましたあー

目を覚ましてからなら大丈夫



仕方ないわね
まあいいわ…

これから貴方に
重要なお使いを頼みます
今新薬の研究で
どうしても足りない
材料があるの…

ふう。

(…)

あつみ…
怒るの…

それを、いまより一階に
探してきて欲しいのよ
場所をいってあげて
あつみ、あつみ

ちゅーこー
師匠の頼みだよ
命尽きるまで頑張るわっ

!

グッ

んっ…急に吐きかけたア
トイン行きたかたが…

モジ

モジ

この頼みごとが終わったら
かえり師匠を助けてあげたい
あまのあまの師弟な
てらてらわーこーてらわー…
あまのあまの師弟な…



誰かよこせ

冬の竹林は冷たいから
あついで寝ておきな
あついで寝ておきな…
んっ…

ひまろ…
意識したら余計我慢できなくなっちゃうた
じつたて用を足すこと…

ひい

グッ

ブルッ

おまのあまの師弟な
トイン行きたかたが…

あまのあまの師弟な…

どうぞ取れる時期ウサ
さまいくやウサッ!

湧いて・湧いてウサギ水、
新薬・魅惑のウサギ水、

しめがしらこぼれだせッ!

鈴仙ちゃんのウサギ水、
湧いて・吹き出せ・ウサギ水!

ふええ!?
てめ…今なんて言っ…
ひゃあああまん!

やだっ…だめっ…

おしっ!勝手に
出ちゃう〜

ビクッ

ブルブルッ

じゅわわ

わ



おっ!
大成功!

なんぞ!?

びくっ!お尻はもるごの〜

おああああ〜ん…

漏れちゃうっ!…んんん!



ニクッ!

アリスにたくさんお水を飲ませてみた。

Kanchela

これからアリスちゃんには
たくさんお水を飲んでもらいます

だめです
トイレに行ったり
おもしろいなんてしたら
おしおきですよ？

ちよつと……
その前に
トイレに行かせてよ！

カラッポ!



3リットル
くらい
余裕だったね♪

はい、
よく出来ました



ほらほら、
飲んで飲んで!



きやあ!
だめえ!

それでは、今度は
もうちよっと
いいこと
してみましようか

あーあ……
あんだけ言ったのに……
おもしろししちやだめだつて……

そ、
そんなこと
いつたつてえ……

そうですね、
おもしろしたバツは
もう考えてあるのです

ふ、
ふええ？

大丈夫です
貴女が大好きな
ことですから……



あの、これでいいの
でしょうか……？
おトイレが詰まって
しまいましたけど……

ご、ごめんなさい！
今から綺麗にいたします……

むかしの
むかしの

これは
語り継がれ
ない喧しが話

宇治拾遺物語が
言うところの
“もうれん聖”が
建立したここは
“命蓮寺”



時代は平安
延喜帝の御世

莊厳にして尊重
靈験あらたかなる
靈場

私が出た
ばんばん

秘蔵の
かんかん

の浴室

かぽん

くおーいー

白蓮の
莫逆!

出てきな
さいッ!

あー！
吃驚した

星何??

何?じゃ
ありません!

檀家の方から
苦情が
来ています!

貴方よりもよって
一日体験入信に
来た
娘さんたちに

オオッ

性的な
イタスラをした
そうですね!

え?
アレ?
誤解ですよ

一日体験修行に
仲良くなった
娘たちにと
お願いした
だけですよ

何を
お願い
したの!?

いえ久しぶりの
若い子達だった
から一緒に
お茶の
それから

延喜元年の アンチエイジング

by ちゃむべい



後はみなさんに
この風呂桶一杯になるまでおしっこをしてもらっただけですし



エリザベト・パトリック著
「お肌ピチピチ若返り
ブラッドバス健康法」
※R-18G

エリザベト・パトリック伯爵夫人
1560年～1614年

稀代の殺掠者兼
エイジング
ケアサポーター

これ唐渡りの最新若返り指南書で



ああ、それはこれなの

何故!? おしっこおけ?

why?



彼女は己の若さと美貌を保つため何百人のもの処女を殺びたそうだけど

ここ殺生禁断の聖域でしょ? それは問題でしょ

だから彼女達のおしっこで代用してみたんだけど...

これがもうお肌つやつや!

効果には個人差とあります

うわあなんだか凄いなつたぞ



うわわわきたねっ!

汚いとは何ですかね失礼です

彼女たちが精魂込めてお漏らしたアムリカ露を

大体、それだと血風呂じゃなくて尿風呂じゃ...

貴方に人を失礼とかいう権利ないわ!

いやそうは言うけどね

途中からは放尿の快感に目覚めた娘もちらほら...

ああもう!

とにかく!

今後一切檀家の娘さんからおしっこ貰うのはダメです!

ズズ

黙れ!

みさり

いいですよ

あれ?

星は毎日の社務で忙しい事は分かっています

それに加えて毎日毎日檀家の子たちのおしっこ回収に時間を割いてもらいますよ

お前が

つまり私に状態の片棒担がせる気だつた?

いい度胸だなスカトロ超人

だって星財宝を集める能力あるでしょ?

そうか! よし! 殺す!

でももっといい方法を考えたの

檀家の負担も星の手間も増えずに毎日おしっこ風呂が浴びれる方法

はあ...

どう言えばわかるんだこの人は

まあ檀家に被害が行かないだけでもよしとするか

命蓮寺
源泉 かけ湯
分性素
成原女
本日終了しました
7:00~6:30
飲尿に適します

そんな方法なんですか?

この先100m

おん



人間に迫害される妖怪を保護し

そしてその代わりに彼女たちからおしつこを得る……

秘尿器を強化する
尻赤かまきり

これこそ助け合いの精神！完璧な相互補完

誠にGJで一石二鳥であるッ！

ガッ



尿道から入道が！！
ふえええ…
水難事故止まらない
あはあ…
正体不明
気持ひいとい

ノー人ですから30秒ね

もしもし保健所ですか？

ちよつと封印して欲しいBBがいるのですが…

後日、聖白蓮は無事に魔界に封印されました

今は昔の(色々の意味で)語り継がれぬ物語

ご主人ご助け…

カワレ









— そんなわけで
河童と土蜘蛛の仲が
悪くなったのよねー

土グモ
泣いてたなー

どう考えても
河童が悪いと思うぜ？

でもそれ
私の尿よ

全く…
私にはおしっこを
飲みたがる気持ちか
わからん…

完



あの…
なぜ私は
ここで正座
させられて
るんで
しょうか？



なんだ
分かって
なかったのか？

神社へ来る途中
お前が
おどかした所為で
せっかくの酒を
落としそうに
なったじゃないか

私はお前に
説教するんだよ



それはいいから
まあ聞いてくれ

この間
霊夢のやつがさ…

ていうかこの人
話し相手が
欲しかっただけ
なんじゃ…

もれちやう☆小傘ちゃん

春日雪人



…お酒は
落とさ
なかった
ですよ？

落とすわけ
ないだろ
せっかくの
酒だ



でな…

あの…

なんだ？



足くずして
いいですか？

駄目に決まってるだろ

神社では
正座が基本だ

だって
それ…

私のは正座だぜ

我流だがな



15分経過—

うう…
足がジンジンする…

それにさっきから
おしっこ行きたいし…

おしっこしたいよ…
早く話終わらないかな

もじ

もじ

ん？

どうした

ふるふる



いえ
あの…

お手洗いに
行ってきても
いいですか？
漏れそう…

そわ

そわ

はあっ？

早く言えよお前は

我慢してるとか
律儀な奴だなっ



!?

かぐん



早く
行ってこい

は

はい

ホッ

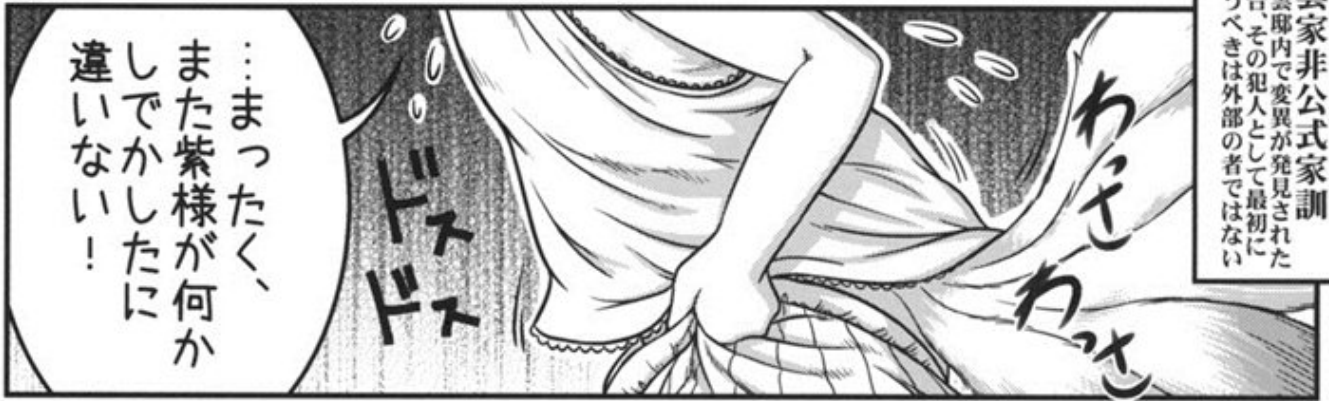




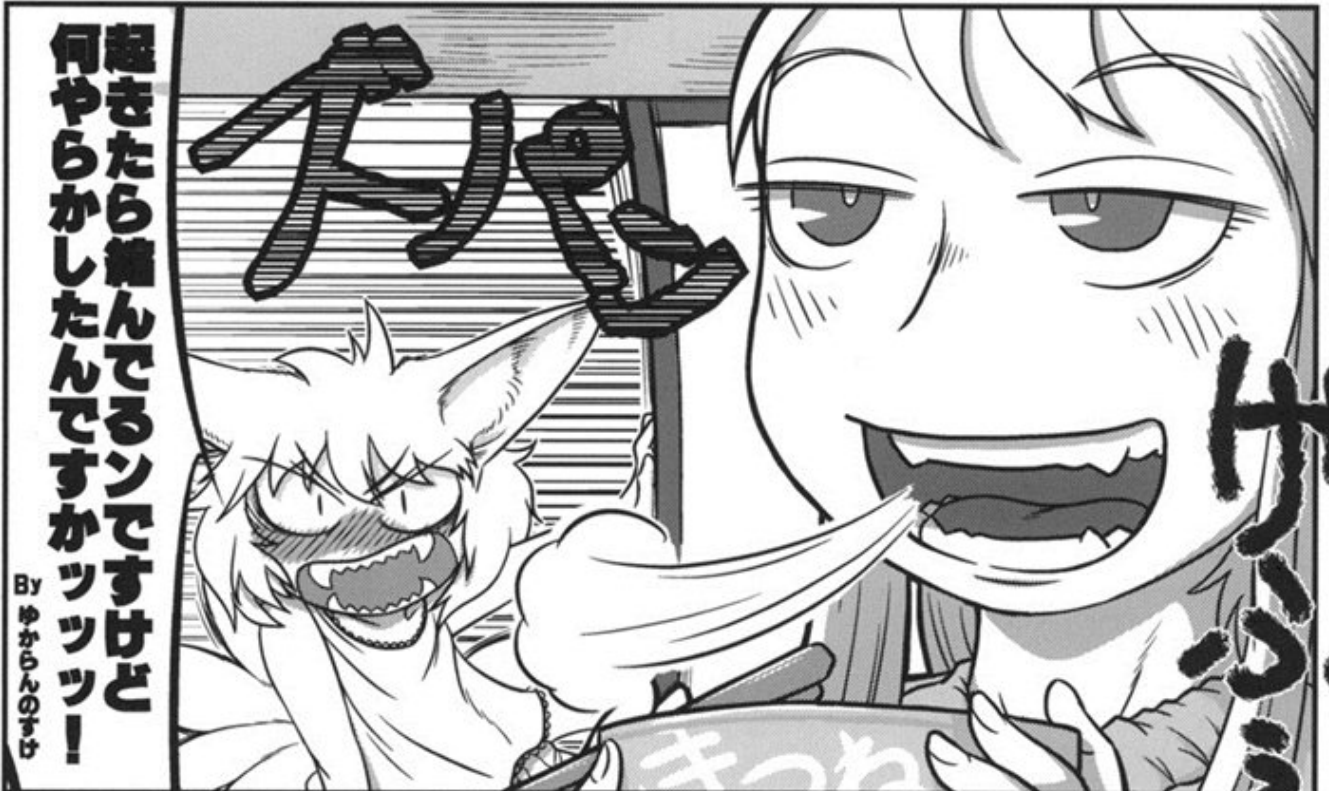
あまりにも気持ちよさそうにだけだ
 寝ていたのをみただけで漫画
 イタズラしてみたらわ!!



八雲家非公式家訓
 八雲邸内で変異が発見された
 場合、その犯人として最初に
 疑うべきは外部の者ではない



…まったく、
 また紫様が何か
 してかしたに
 違いはない！



起きたら噛んでるんですけど
 何やらかしたんですかツツツ！

By ゆからのすけ



いえ、そういう
 問題じゃないです
 あとそれ、
 私のカップ麺です



あ、本当だ

安心なさいな、
 尻尾は九本ある
 でしょ？
 立派な大人よ

フエネックギツネ
(学名: Vulpes zerda)

砂漠に住む世界最小のイヌ科動物



あなたの遺伝子情報の
スキマいじったら
できちゃった



何てこと
しやがり
ますか



そうだ、
ちよつとこっち
来なさい

そうそう、
こんな感じで
抱っこしたかった
のよ!



えっ、ちよつ、
引っ張らないで

ソリソリ



こんな格好の
時ばかり
甘えるん
だから...



どどどわわわ

ぽふん

あ、あの、
紫さま、

私、まだおトイレに
行ってなくて…

ふうん？

悪匠の
顔だア—ッ!!!!

あなた、昔はよくお漏らし
してたわよねえ…
大人でも体がちっちゃいと
同じなのかしら？

だ、駄目、
行かせて…

漏れちゃい
ます…ツ!

じゃあ命令するわ、
ミニで、しなさい

ぽわっっ





射命丸あやややややーと愉快的仲間達(主に河童)の 温☆泉☆放☆尿レポート ～尿見たいよ尿～

がお☆ゆん

どーもどーも。毎度お馴染み清く正しく美しい、正義のジャーナリスト射命丸文でございます。異論は一切お受け致しません。何故なら射命丸だから。自明の理でございます。

さて、あれから百年、ロトの勇者とローラ姫の子孫は……え、何、勝手に幻想入りさせるなつて。いや実質幻想入りしてるようなもんじゃないですかアレ。寧ろ関係ない。そうですね。全くもつてその通りでございます。サーセン。

え、早く本題に入れつて。せっかちな人は禿げますよ高血圧で早死にしますよ……アイタタ、物投げないで下さい解りました。

と、とにかく。

一部の皆様は御存じでしょうが、射命丸、切ないことに謹慎を食らってしまいました。皆様の為世間の為、尿と女好きの為と死力を尽くした取材だったのですが、射命丸の野望、そう、チルノちゃんのおしーしーをよんによんする計画は、すんでの所であるクソワンコロによって断たれてしまったのです。キイイ！ 犬っころはガムでも嚙つてりやいんですよ！ ま、ぶん殴られて意識飛ばす前に、チルノちゃんの塩っ辛い風味を微かに味わえただけ僥倖としましょう。そうしま

しょう。

ですすね、そのお陰で射命丸、しかしチルノちゃんには半径100間(一間≒約1.82mつまりメートル法換算だと182mですね)には近付くなどのお達しが下りてしまい、チルノちゃんはお山との取り決めで当面の間紅魔館に匿かくまわれることになってしまいました。しかもチルノ嬢は悪魔の妹君の相手役を仰せつかり、弾幕ごっこやらガチバトルでぼこられながら、おやつをたんまり戴いたいている、という話です。

どう見ても近付けないって事じゃないですかー！ ヤダー！

という訳でチルノちゃんの継続取材は諦めざるを得なくなりました。お仕舞い。

……何ですか。お仕舞いで終わりだと思つてたんですか？

まーっさか！

この射命丸、チルノちゃんの取材が不可能になったくらいでへこたれめげる程へたれじゃあ御座んせん。妖怪の山最速にして屈指のタフネスを誇る(※鬼除く)射命丸、勿論他にも隠し球は色々持ち合わせております。でなきや千年も新聞記者やってられません。いやいや、マジで。

ほら、先日博麗神社の近所に間欠泉が湧いたじゃないですか。アレですよ、アレ。

あの後私も巫女に協力しまして、地下の騒動に一枚噛んだわけですけども、あれの跡地、温泉設備が完備しまして神社の良い収入源になってるようで、人妖を問わず紳士淑女の社交場になってるんですよ。泉質も悪くないし、腰痛やら何やらに効能が高いと専らの評判です。

で、ですね。

温泉といえばアレじゃない訳ですよ。

え、アレって何だ、ですって？ 本気で聞いているんですかそれ？ 本気。仕方ないですね。耳かっぱじってよく聞いて下さいよ。

温泉とい、え、ば、放尿！ 放尿です！ それしかないでしょう！

溢れる豊かなお湯の中で弛緩し、大自然の中で開放的な気持ちになれば、ちよつとくらいお風呂の中で漏らしたって誰も気付きゃありませんからね！ お湯の中に溶け込む少女達のおしーしー、おしっこマニアのロマンとしか言い様がありません。大体お風呂なら裸見放題ですしね。うーん、最高。そのお湯でカップ麺とか作ったらマジでカップ麺五杯イけます。

ただ問題がありました。

観測をどうするか、なんですよねえ。

ほら、おしっこって、尿じゃないですか。

ああ違う、何当たり前のこと言ってるんですよ、あたいたったら、マジ大ボケ。おしっこは液体です。つまり、湯の中に溶けてしまふ。しかも、温泉ですから呼吸が困難です。温泉に潜りっぱというわけにも参りませんし、いかに澄んだ湯であっても湯の中で目を凝らして尿を観察するのも難しいことです。幾ら防水加工が施されているからとて、湯に付けっぱなしで無事で済むのか、とか、そもそも私は件の氷精わいせつ強要事件の為、博麗の巫女には未だに警戒されていて（地下では助けてあげたのに、この恩知らず強欲巫女！）、問題は山積。

故に、私射命丸は、尿の盟友宅へ相談に向かっているのであります。

「はあ、遠隔操作」

「そつすそつす！ これをお風呂に沈めてだね、あたしらは妖怪の山の温泉で、こっちのモニタを見ながらまったり一杯やってりやいってワケ。こっちのカメラは岩に偽装して予め沈めておけば、まあまず見付からないん

じゃないですかねー」

なるほど。と私は差し出された焙じ茶をずりと啜りました。うめえ。

今こうして相對している尿盟友は河城にとり、河童業界のおしっこ通といえは彼女、というくらい業界には精通してまして、私もよく生写真を買って貰ったりカメラを防水加工して貰ったりとお互いに持ちつ持たれつの関係にあります。

しかし、えらい生き生きしてんな河童河童。

まあそうですねー。彼女水の中得意ですし、河童は大体マッドエンジニアの集まりですし、水中放尿と来たら河童の守備範囲ですしねー。

つー訳で利害一致。やったね。

「あつでもでも、どうやってカメラ仕込むの温泉に」

「あたしは警戒されてないからあたしが行きますよ」

河童河童、ニヤニヤしてます。ちえっいなーいなー。いつも巫女とか魔法使いとかあれとかこれとか女とかの裸見てんだろうな。

「何時頃決行します？」

「その点はまあ、御覧じろって事で」射命丸

秘蔵のメモを胸ポケから取り出して、ペラペラつと捲ります。

「隙間妖怪主導で明後日に恒例の飲み会をやるらしいですから、その前々日にセッティングして、前日にテストってスケジュールでどうです」

「お^k」

私は河城河童にGJのポーズを返しました。

「じゃ、秘蔵の焼酎持って行きますよ」

「温泉に浸かって飲む酒は最高だよー、じゃあうちは塩付けキュウリを」

「いらん」

「じゃあ電動キュウリも付けるから」

「それもいらん」



「で……結局持ってきたんですかキュウリ」

「いいじゃん、酒のつまみないでしょ」

ここは博麗神社の温泉……ではなく山の秘湯。天狗や河童などの山の住民のみが利用を許されているのであります。何が素晴らしいつて、幻想郷中を一望出来るこの光景ですよ。いやあ、ホント最高。これに匹敵出来るのはチルノちゃんのピンクのお……ゲフンゲ

フン。今回はそこは忘れないといけませんよね。ええ。何てだったって晩秋の温泉ですから、姉神様が頑張つて幻想郷中を紅蓮に染め抜いて下さってるのですから美しくない訳がない。その色の深みたるや処女の経血の如し！

姉神様の経血チュルチュルしたいウフフ。

そんな中、二人の尿好きは素裸で、河城河童のセッティングした。もにた。とやらを眺めつつ、一献やっている次第なのであります。

この。もにた。とやら、何でも風祝が持ち込んだ外の世界の道具の技術を模倣した物らしく、静止画だけでなく動画までリアルタイムに見る事が出来るという、隙間妖怪が持ち込んだ陰陽玉のような便利な代物なんだとか。画面を切り替えることで、水中だけでなく外での放尿も観察可能、見たいところはズームアップも出来る優れもののだそうです。つまり、あの女やこの女のおにょんにょんが**はら**がる瞬間もドアップで見られるということですよ！ 流石、河童の技術力は世界一イイイイ！ ですね！ 射命丸、河城にチュウしちゃう！ あ、河城こっちみんなって顔してる。キュウリプレイマニアの癖に自分だけ健全って顔すんなし。

ま、結局私も塩キュウリをポリポリ囓りつ

つもにたを見てるわけですけどね。温泉に入つて一献傾けつつ、少女達のおにょんを観察する、この世で考え得る史上最高の娯楽じゃないですか！ ビバ幻想郷！ ビバおしっこ！

「で今日の面子は誰と誰なんです？」

ここ、大事なことなので試験に出ますからね、ちゃんと確認しておくことにしました。あたいたらマジ抜かりない。

「博麗の巫女と白黒と、スキマ一家はまあ確定ですよ。ポリポリ。それから、アリス」

「ふむふむ」

「そんだけ」

「そんだけえ〜!? どんだけえ〜!」

「しょうがないじゃないのさ」河城めウギギ、と歯ぎしりしても、来ない物は来ないのだから仕方ありません。しかし、女と呼んでも良い妖怪がスキマんとこの式の式くらいしかないというのはどうなんでしょう。射命丸、ひっじょーに遺憾ですよ！ がっかりした！ 心置きなくなりました！ つるべた持つてこい！ あ、河城が変な目で見てる。「だったら別に今日じゃなくても良いんだけど？」

「あ、いやいや。女以外でもいけますよお

「しっこ？」河城がもにたをしまいこもうとし

たので、射命丸は河城からもにたを取り上げて元の位置に置き直しました。あと塩キュウリも3本目ゲット。ポリポリ。うめえ。

「文句言いながら結構食べてるじゃんよ」

河城が恨めしげにキュウリを見遣りました。そんなものは全スルーです。私の方がきゅうり食べてることも含め。

「おほっ、来た来た」

人の気配に目を向けると、主人公二人組のお出ましです。

霊夢も魔理沙もまだ第二次性徴を迎えてないので、二人ともつるつるのぺったんぺったんです。霊夢よりは魔理沙の方が若干いすかね。体系的にも。

正確には、若干『ふくらみかけ』ではありませんが、まだ抑揚らしきものは抑えられておりまして、女スキーとしてはこの危ういバランスがたまらんとという方もおります。が、射命丸的にはこの時期だとちよつと女が出過ぎかな、というか藪が立ってると思ったり。内面的にはメツチャガキンちよですけどねこいつら。怖いマジ怖い。誰だ矛盾してるって言った奴出てこい。出てこないですよね

余裕です！

「藪が立ってるってどんだけロリコンだし」

「うぐう」

的確な突っ込みです。まあ別に女じゃなくても全然いけますけどね！じゆるり！

ちよ、霊夢かけ湯もせずに風呂にin！かけ湯ぐらいしろよ物臭巫女！物臭にもほどがあります。きたねーだろオイ。

一方魔理沙は床に屈み込み、リラックスした様子で……！

「ちよ、ちよつと射命丸アップアップ！」

「のわっ！油断も隙もありませんね流石白黒」

おーつと霧雨魔理沙、いきなり屈み込んで電光石火の放尿だーっ！じよろじよろ、ほの暗い股間から迸る透き通った黄色い液体は床下でぶくぶく泡立って……羞恥心ゼロです！ぶっちゃけ乙女の秘密ゾーンが丸見えです！ちったあ恥じらえ！

と思つたら河城、モニタの前に貼り付いて電動キュウリがつつり掴んでます！いきなりかよ！

「魔理沙かわいいよ魔理沙のおしっこかわいいよ、飲みたいよハアハア……」

ちよおまっつと言いたい気持ちをぐつと堪え

つつ、後頭部をべしり。

「射命丸邪魔すんなし」

「今からそんなハイテンションで飛ばしてどうするんですか。まあ落ち着け河城河童」私は河城の頬によく冷えたキュウリを押し付けました。「せんずりは家に帰ってからにして下さい。取材取材」

「あっそうだった」河城、いそいそとキュウリを仕舞いました。いくら尿盟友だからって河城のオナニーは別に観たくありませんし。「めんごめんご」

うっわメンゴメンゴって、メツチャ幻想入りしてますね。流石幻想郷。

「ちよつと魔理沙！おしっこくらい済ませてから風呂に入りなさいよ！ギャツ」

ギャツ、は巫女の叫び声兼、魔理沙の湯飛沫です。白黒魔法使いは放尿を済ますや否や、かけ湯もせずに（重要、ここ試験ですよ！）お風呂にダイブ致しました！しかも平泳ぎで泳いでます。フリーダムです。髪の毛そのままです。まとめろし。

「どうせ風呂で流すんだからいいじゃないか」「だったら外で流さないよ！」

「霊夢だつて流さないぜ」

霊夢、言い負かされました。ぷーと膨れて

ます。魔理沙、悠々と靈夢の前を泳ぎながら勝利宣言です。湯の中から時折ふつくり盛り上がるお尻が、存外ラブリーです。ピンクだし。

「いい湯だなっアハハ♪」

勝ち誇る魔理沙は泳ぎにも飽いて、靈夢の隣に体育座りです。何だかんだで靈夢大好きっ子ですからね、魔理沙。しっかり真横をキープしております。靈夢はというと、同じく体育座りではあるのですがもつとだらんと、程良い脱力加減でお風呂を楽しんでおります。

「もつとゆつくり浸かってなさいよ。騒々しい」

「はいはい、だぜ」

はあ、と靈夢は小さく溜め息を付いて肩を落とす、目を瞑りました。すると、モニタの一部が靈夢の方にズームします。

「おおお？ おおおお！」

靈夢の足と足の隙間から、ゆるゆると何やら黄色い液体が質量を伴って広がって行くではありませんか！ それは足にまとわりつき、そしてやがて湯の中へと拡散し、拡がり切って見えなくなっ行ってきます。

尿の余韻が全て湯の中に溶け消えた頃に

は、射命丸、すっかり女の部分がうるうるしておりました。

「人の事言えないじゃん……」

河城の一言に我に返ると、あらやだ射命丸

ワレメに指をくにくくにくくしてました！

「いやん☆」

「きめえ」

アホな遣り取りをしている内に、二人はさっさと温泉から出て行ってしまいました。あー残念。

そろそろ二合目の銚子がデビューなさる頃

合い、湯煙を掻き分けて入って参りましたのは八雲藍と橙の八雲式神コンビで御座いました。確か猫の方は水が苦手と聞いているのですが、今は大丈夫なのでしょう。それとも温泉であれば行けるのか、式神についての謎は尽きませ……い、イヤアアアア！

「どうした射命丸」

「だ、だ、だ、だ、だ、ないわーないわー！」

射命丸、怖ろしいものを見てしまいました！ アレはない！

あの猫、どう見ても幼女体型なのに、生えているんですよ！ 有り得ない！ モッサモッサじゃん！

え、何がって？ 試験に出ますよ！ だから耳かっぼじって聞きなさい。アレです、アレ。

い・ん・も・う！

「は？」河城河童が何か変なものでも食べたの的な顔で私を見上げました。「あんたさ、見た目幼女だけアレ、猫又だよ？ 普通に20年余裕で生きてるおばあちゃんでしょ。生えてもおかしくなくない？ 大体猫だし子供だっばっこ産んでるって！」

ぼこぼこ産んでるですと！ ないわー！
ロリババア。ロリビッチ。うへえ。

「あんたの大好きなチルノちゃんだって何年生きてるか……」

「わー！ だめ！ だめ！ それ以上ストップ！」

処女厨め、とかどうせ河城河童の陰毛は青ですよくだとか何とか呟く河城を尻目に、私は記事に集中すべくペンを取るのです。

それにしても、傾国の美女とは良く言ったものです。

八雲藍が件の白面金毛九尾その人か否かについては知りませんが、スレンダーながらに女の色香をふんだんに振りまくその体の美しさと言ったら、同性ながらに嫉妬を覚えてしまいます。パールパール。正直ちょっと痩せ杉か

など思わなくもないですが、寧ろそれが退廢的な美を作り出していると言えます。おっぱいだって小ぶりだけど上をつんと向いていて、慎ましくも瑞々しさに溢れておりますし、ふさふさと豊かな金色の陰毛の柔らかさそうな事といい、ピンク色に等間隔で並んでいる乳首……等間隔で……！

複乳！

複乳！

複乳ですと！

流石はケモノ。良い乳首です。もしアレが白面金毛九尾その人なら、あの乳首は紉王や班足太子や幽王や鳥羽上皇にちゅっちゅされたのでしょうか。妄想が止まりません……！
「足の筋肉とか、素晴らしいよねえ。ねえ射命丸……しゃめ……ふ、複乳……?!」
「あのおっぱいちゅっちゅしたい……ウへへ……」

「射命丸って相当なマニアだよねえ……」

いやいや、あんたに言われたくありませんからおしっこ厨。と思いつつも私もおしっこ厨なので何も言い返せないのでした。

そんな下らない事を言い合っている内に、八雲式組はお互いにかげ湯をしあっておりまして、黒髪金髪と尻尾さえなければ血の繋

がった親子のようでありました。ほのぼの。白面金毛九尾の方が己のふさふさの尻尾に湯をかけている合間に、しかし、黒猫式は急に何かを思い立ったかのようにたたたと草むらへと駆け込んでいきました。

「えっ。何、何」

「河城、ズーム！ズームです！」

画面をズームすると橙が草むらに屈み込んでいるところでした。

「おおっ……？まさか……」

「来ますよ、これは来ますよ！」

我々は昂奮気味にもにたを覗き込みました。我々の位置からは繁みの合間の橙のお股が見えます。つるつるじゃないので微妙な部分は残念ながら草の中。

ですが、ですがですよ。

それでも、その繁みを分け入って、最初は遠慮がちに、やがて勢いよく進むアレは、アレは、間違いなく■女のおにょんにょんであります！魔理沙のそれは若干角度斜めでしたが、橙のは下正面です。魔理沙はつるつるでパッチリでしたけど暗かったですしね。どちらにもそれぞれの良さがあります。実に奥深い。

「ギャー、尻尾邪魔邪魔！」

が、しかし、によーによー鑑賞タイムは八雲藍のふさふさ尻尾にて中断の憂き目をみました。白面金毛九尾は急いで駆け寄ると、橙を脇から抱えて叱ります。式の式は叱られて涙目です。足の裏についた泥が橙の太ももを伝う尿で若干流れ落ち、指から陰毛からはたまたた叢から、尿の雫がぼたぼたと垂れています。

式の式は反抗的な目つきで九尾を睨め付けましたが、それも濡れ尻尾で顔をびしゃりとやられてはたまりません。頭に湯桶を被せられ、式の式はいそいそとかけ湯をし直すのでした。

「あーもつたいないなーあのおしっこの雫チュルチュルしたかったなー」

河城がもうもにたには興味ない、とばかりに反つくり返ってキュウリをポリポリ囓りだしました。八雲藍が橙を風呂に入れてよりますと、こちらに背中を向けており濡れ尻尾が画面の殆どを塞いでしまったので、我々としてはお手上げでした。

「うーん、思わぬところで改善の余地ができたかったなあ。ま、次回以降の課題だね」

「しょうがないですよ」私は河城のおちよこに残りの酒を注ぐと、早く九尾どっかに行か

ないかな、と思いながら3本目の銚子を摘み上げたのでした。

式共は存外早く風呂を出て行きました。やはり紙であるからして、あまり長く浸かっていられないのかもしれませんが。せいせいした、と二人してちびちび酒精を吸っておりますと、入れ違いに暖簾のれんを潜る人影現れ、二人は依然背筋を伸ばしてもにたにじり寄りしました。誰も居ないの用心深く確認して出てくる辺りや、前をしつかりガードしているところが実に初々しい。何処その白黒や紅白とは大違い、乙女の鑑です。

「なーんかさー、誰も居ないのに一生懸命ガードしちゃって、ちょっとしこってるよね」

「何そのしこってるって。放尿しといて湯もかけずに飛び込む白黒魔法使いよりよっぽど乙女でしょ」

さて、その初々しい少女は誰であろう、アリス・マーガトロイドでありました。

魔界の創造神の娘とも噂される七色の魔法の裸体を見たのは、実は私これが初めてでした。なるほど、そんな噂が流れるのもむべなるかな。すらりとした格好の良い肢体、雪花石膏アラバスターの如き肌、肩口で緩やかにカーブを

描きながら踊る金の髪、慎ましやかに谷間を覆う金の柔毛、小ぶりながら形の良い乳房といい、どれもこれもが魔界の神の権能と美とを悉く体現していると言っても過言ではありません。何処か彼岸を思い起こさせる、この世のものならぬ美しさでも申しましようか。生きていながら生命観を微塵も感じさせない、人形の如き冷たき美しさ。それが、アリス・マーガトロイドを一言で現すならば最も相応しいと私には思えました。

でも相方はそういう高尚な美しさってあんまり好きじゃないみたいで、アリスしこつとるしこつとると頻りにブチブチ文句言いながらキュウリガシガシ。まあ私は魔理沙みたいなおげふいんな娘はあんまり好きじゃないんで人それぞれですかね。寧ろ魔理沙に関してだけ言えば最速とか偉そうですしおすし。

そのうちアリスは前を隠しているタオルを横に除け、桶を片手に何度も何度も湯を被りだしました。

「……何かおかしいね」

「うん」

いや、何度も何度もお湯被り過ぎなんですよ。おかしいですよ。河城がもにたのズームをアリスに近付けますとあら不思議！ 流

れていくかけ湯の隙間から、途切れ途切れに液体が零れています。普通なかなか目視は難しいのですが、そこはそれ、尿マニア河城の技術の結晶、尿センサーが激しく反応しっぱなし。流れるお湯に混じる尿がうっすら、映し出されているじゃありませんか！ 何という乙女らしい恥じらいでしょう！ それにしても、あの完璧すぎる肢体から耐えきれずに溢れるおしっこ！ これぞギャップ萌えですね！ ああでも出来れば足を開かせてじょーって零してるところを見たいのですが、それは望むべくも無いですね。だってそんな事したら彼女の事ですから恥ずかしさのあまりに死んじゃいますよねウフフ。射命丸のバカ、バカ、やめてえっ！ さ、撮影なんてしたら殺してやる……！ しかし沢山お茶を飲まされたアリスはお腹を押され、我慢できずにおしっこを迸らせてしまうのです。そして写真をばらまかれたくないがために更なる痴態を強要されるアリス……。やべっこの妄想だけで官能小説一本書けちゃいますね！

夜伽話に投稿しちやおうかしらん。

とか言ってる間に残念ながらアリスのおしっこは終わっちゃったみたいですけど。まあこれで完璧ツンツンアリスの弱点を握った

という事でウフフ。射命丸大満足。やっぱりエロスのロマンはチラリズムにあり、ですよ！ え、矛盾してるって？ ンな事気にしてるとろくな死に方しませんよ！

アリスは念入りに体を洗った後、相変わらず体をタオルでガードしたまま湯船に足だけ浸かってそわそわ、妙に落ち着かない様子です。

「何か変だねえ」河城が四合目の銚子ちょうしに手を伸ばしながら呟きました。

「何か変だったんですか」

「いやねえ、何か一瞬目が合ったような気がしてどきつとしたんだよね」

「何いってんですか、肉眼で見てるワケじゃあるまいし」

「まあそうなんだけどね、何か目が合うと落ち着かないじゃない？」

「気にしすぎですよ」私は盟友の肩を軽く押してやりました。「おしっこアリスなんて滅

多に見られないもん見れたんだし」

「うん！ アレはレアだった！」河城は途端に目を輝かせました。すっかり出来上がってるみたいですね。

「アリスのおしっこ、これだけで記事三本余裕で書けますよ私」

「愛蔵版にするわそれ」

私達が盛り上がり上がっている内に、アリスはさっと肩まで浸かってさっさと出て行ってしまいました。

いかげん私達もいい感じに酔っぱらっておりまして、既に用意した酒瓶も半分以上空。キウリも枝豆もほとんどなくなっていました。少し上せてきましたので湯から出て体を冷やしておりましたが、しばらくしても誰も入ってくる様子がありません。

そろそろお開きかねえ、などと二人で話しておりまして、暖簾の奥より人影、否妖の影が浮かび上がり、私達は息を飲みました。

本日のトリ、八雲紫の登場でございます。

「流石だねえ、綺麗だねえ」

河城河童が見とれて、思わず溜息を漏らしました。

すらりとした肢体。しかしアリスや式とは

違いもつとグラマラスな女の体です。しかし完成された女の美というにはまだ何処か危うさを残した、少女と女の境界に絶妙なバランスで留まっていると言えましょう。帽子は取り、長い髪を器用にまとめて、足取りも優雅に湯桶を手にしております。ええい、パルパ

ルスイ！

「いいよねえ大人の女」

「どこが。どう見てもババアじゃないですか」聞かえなければ何を言ってもいいんです。大切な事なので二度言います。若作りババア。ザマア。

そんな私の悪口など知ったこっちゃないと湯浴みをして後、八雲紫は湯船にゆるりと身を沈め、カメラの真正面に陣取りました。

「わ、やっぱり大きいおっぱいだよ。形も綺麗だし」

「たれ乳ババアじゃないですかあんなの」

「たれ乳だったって、守矢の巫女より全然小っちゃいじゃないのさ」

守矢の現人神あらひとがみ曰く、顕界の女の乳は乳牛の様なのがそこらにいるそうで、彼女でさえそんなに大きい方ではないのだそうでございます。

それでも幻想郷で守矢の現人神ほど胸の大きな女はまずおりません。

「も、守矢の巫女はおっきくてもいいんです！」

「何だそりゃ」

まあいいんですけどね。ひよつとしたら画面に映ってないだけで嫉妬妖怪が地上に出てきているんでしょうかねえ。橋姫マジウザイ。

死ねばいいのに〜♪

「それより、さつきから落ち着かないですよ
ねちよつと」

「ねー、解るでしょ。時々目線が合うのが何
かね」

「そうなのです。目の前に、隙間妖怪がいる
のです。」

向こうはこちらを見ていないのですが、
時々首をコキコキやっている時に偶さか目線
が合つて、にこつとこちらに笑いかけたよ
うな気がしまして。隙間妖怪の事ですから見
えてても全くこれっぽっちも問題ないような
感じがまた相乗効果でキモが冷え冷えするの
ですよ！ キュン！ もつとも、肝腎の隙間
妖怪は優雅に湯を愉しむと、首をさすりなが
らお湯から上がってしまいました。

もう、誰も来ないでしょう。

「そろそろ、お開きですかねえ」

「だいぶ飲みましたしねえ」

二人は顔を合わせました。お互いいいピン

ク色です。頭ん中はずっと汚ピンクです☆

「私達、ほんつと、だらしなかつたんですよ
ね〜」

「誰にも見られてませんしね〜」

漏らしちゃおうか。

私達は頷き合いました。

二人して足をがぼつと広げます。誰にも見
られていないと言うのは何という開放感なの
でしょう。

私達はいいかげん膀胱に貯まったおしっこ
を、ほぼ同時に湯の中に解き放ちました。尿
は温かい物と相場が決まっているように思い
込みがちですが、解き放たれたぬるま湯は体
温より温かい湯に溶けて、胎内の冷えを感じ
させてくれるのでした。じよわり、じよわり
と黄色な液体が湯の中に広がって行きます。
私達は膀胱に貯まった冷えを解き放つ愉悅
を、至高の快楽と共に味わいました。

いやあ、最後は自分ので締めるのつていい
ですね！

お茶漬けみたいな事言ってるし。そういう
河城河童もまんざらではないようでした。

湯の中に黄色い液体が広がってきて、薄れ
ていく様を惜しみながら、私達は晩秋の湯を
楽しみ……。

「あややつ？」

「どしたんアヤーヤヤーヤー Hunting is
going on we are a part of the wilderness」

「誰がヨンネ・ヤルヴェラですかこのヒツタ
ヴァイネン。そんな事はどうでも宜しい。こ

れを見て下さい！」

私が指差した先には河城製作のものだが、
もにたには、誰も居ない筈の温泉で、足をが
ぼつと広げて放尿する二人の少女が……。し
かもびらびら見えまくりです！ 通常ならモ
ザイク掛かっちゃいます！

「つてあのおしっこに揺らぐ青い陰毛とい
い、どう見ても私達じゃないですかー！ ヤ
ダー！」

「え、え、どゆことつすか？」

状況を把握していない河城と訳が解らずう
ろたえる私達の頭上で、どつと爆笑が響き渡
りました。

「この変態天狗！ 氷精の次は温泉か！」

「やーい、おもらし、おもらし河童〜！」

「皆が使う風呂場でおしっこなんて、不潔だ
わ」

「私の温泉なんだからもつと綺麗に使つてよ
ねつ、もうっ」

どの口で言う、という連中も含めて口々に
迫って来ます。いや、あんた達に言われる筋
合いませんから！ つて言いたるところで
すが、現場を押さえられるのはいかんとも
しがたいところです。

つてか、ここどこ？

「人の風呂を覗き見るなんて良い趣味じゃないですわね」

頭上には、浴衣に身を包んだ博麗神社の面々がずらり、私達を取り囲んでいるのでした。つてか、ここ既に妖怪の山じゃなくなっていました！ オ・ワ・タ！

「あ、そうそう、これ没収ね。お互いの為にも」
そういう八雲紫の手には、件のもにたがしかと握られておりました。八雲紫は隙間にもにたを放り込むと、半ばやけくそでへたれ笑いを漏らす私の手から素早く取材手帳をむしり取ったのでした。

あの艶っぽい、全てを見透かした笑み。

あの顔が忘れられなくて、射命丸、放尿見られてる！ 見ちゃらめえビクンビクン！
という妄想で3回もキュウリせんずりしたのは内緒です。ああ、射命丸、DMに目覚めそ
うです……。

船長急患場

かずひろ

ある晴れた朝、河城にとりは川の水に流されながら眠っていた。

手には朝食べようと取っておいたキュウリを握り、ハスの葉の上に大の字で横になっていた。

ほんと、無防備に。

河童は水場でないと生活できないが、雨続きでは憂鬱な気分になる。晴れていれば気分も良いものである。

突然、暖かい液体が顔にかかり、にとりは顔をしかめた。

「せっかく気持ちよく寝てたのに。水たまりの水でも降ってきたか」

不機嫌になったにとりは目をつぶったまま手で持っていたキュウリを放り投げ、また眠ってしまった。

キュウリは朝食用だったということは覚えていないわけがない。

その頃、村紗船長は甲板へ降りてきた。

自分の船を何隻も難破させてきたが、この星蓮船は自動操縦なので、基本的に船長が舵を握ることはない。行き先さえ間違えなければ遭難する恐れもないので、船長と言っても普段は仕事があまりない。

船内生活で暇をもてあましていた村紗船長は、ある楽しみを覚えてしまった。誰にも気づかれないように甲板で放尿するのである。日中は船員が多いので見つかってしまう。夜間は真つ暗なので船から落ちる危険がある。絶好の時間が夜明けなのである。

村紗船長はセーラーのスカートとパンツを脱ぎ捨てると、甲板の手すりに飛び乗った。足を肩幅に開いてバランスをとりながら立っている。上着をまくり、へその前でつかみ、股間を突き出した。陰毛をなびかせる風が気持ちいい。夜が完全に明ければ船員たちが起きてきて見つかってしまう。早く放尿を済ませなければならぬ。

村紗船長は、まくった上着を両腕ではさんでおさえ、両手を太ももに置いた。興奮して我慢ができない。両手で茂みをかき分け、クリトリスと尿道をあらわにした。そしてさらに足を開き、下腹に力を入れると尿道から放物線が描き出された。

「はあ……」

村紗船長は目をつぶり、恍惚の表情を浮かべた。この開放感、陰毛とクリトリスに当たる風、これほどの気持ちよさは窮屈な船内生活では他になかった。

「はあ……」

村紗船長はもう一度深く呼吸をした。

その瞬間、

「の。お。お。お。お。お。お」

急に股間に激痛が走り、村紗船長は目を見開いた。痛みをこらえ、白目をむいていた。何が起ったかわからない。必死になって手すりの上でバランスをとっていた。とにかく落ちないように必死だった。この後に起こることなど、予想することもできなかった。

奇妙な音を聞いたのはメルラン・プリズムリバーだった。メルランは甲板近くの通信詰め所にいた。音楽をやっているのなら指令を間違えなく聞き取ることができるだろうという理由で、通信係に任命されたのである。だが、姉妹3人を通信係にまとめたのは村紗船長の失策だった。雑談や楽器の練習ばかりやっていて、指令を出しても聞き逃すのである。

このとき、3姉妹のうち、メルランだけが起きていた。聞き慣れない音だったので不思議に思い、メルランは甲板に出た。そこでますます美しい光景を見たのである。

村紗船長の股間から立派なモノが生えてい

たのである。

船長は男だったのである。

いや、違う。

甲板の手すりに村紗船長が器用に立っている。だが、白目をむき、顔が青ざめている。足が小刻みに震え、今にも手すりから落ちそうである。股間に手を当て、陰毛の中から太いキュウリが生えている。その先から赤い液体が垂れている。

メルランは一瞬たじろいだ。だが、村紗船長の緊急事態である。慌てて他の2人を起こし、協力して村紗船長を手すりから下ろし、担架に乗せた。村紗船長は何か言いたそうだったが、言葉にならなかった。しかし、「医务室」という言葉を聞いて、村紗船長は自分に危機が迫っていることに気づいたのである。

星蓮船の医長は八意永琳である。永琳は生意気な村紗船長を快く思っておらず、さらに百合疑惑があった。自分がこんなはしたないことをしているのを知ったら、永琳はどんな仕打ちをしてくるだろうか。過酷な医療プレイを強いられるのではないか。股間にキュウリが突っ込まれたまま、村紗船長は恐怖におびえていた。

医务室に着くと、永琳はいた。

「キュウリを抜いたら血が噴き出すかもしれない。あと、長い間空の上を航海していたから、船内に真水がない。水をかけながらキュウリを抜きたいんだけど……。ああ、あなたたち、おしっこ出る？」

「えっ？」

「おしっこは出たばかりなら雑菌がないの。川の水より清潔かも。あなたたちが直接船長の傷口におしっこをかけて洗ってほしいの」

3姉妹は顔を見合わせた。森の中でへビにかまれたならともかく、船の中なのである。傷口に直接おしっこをかけて洗うなんて聞いたことがない。おまけにおしっこを直接かけるということは、他人の前で放尿姿を見せるということである。いくら姉妹で、風呂に一緒に入ることは多くても、放尿姿を見せるのは恥ずかしい。おまけに百合疑惑のある永琳もいるのである。

「おしっこの出そうな者を探してきます」

リリカ・プリズムリバーが医务室を飛び出すと、他の2人も慌ててついていった。

「仕方がないわねえ。私がやるか」

永琳は立ち上がると、ズボンで脱ごうとした。

「こんなババアのおしっこをかけられたら私のアソコが腐ってしまう」

村紗船長は慌てた。でも、痛みで言葉が出ない。もうダメかと思つたとき、

「侵入者を捕まえました！」

ルナサ・プリズムリバーが魔理沙を連れて入ってきた。

「侵入者だあ？。この船にお宝がありそうだから来てみたんだが……」

「だから侵入者じゃないの。ちょうどいい人間。そこに寝てる女の股間におしっこをかけて洗ってくれたら罪を許してあげるわ。さもないと、その女と同じ目に遭わせるわよ」

永琳は魔理沙に言つた。セーラー服を着た女性が股間からキュウリを生やしていた。

「このババア、残酷なことするなあ。うーん、股間にキュウリを突っ込まれるのは痛そう

だ。俺はスカートだから外から見えないし、霊夢が来るまでごまかしていればなんとか

るだろう。こいつに逆らつたらまずそうだ」

魔理沙は堪忍してスカートに手を入れ、ドロワーズを下ろした。手術台の上に立ち、村

紗船長をまたいでゆっくりと腰を下ろした。

「ちゃんと傷口にかけるのよ」

スカートの中は見えないし、おしっこをす

る気もないので、魔理沙は適当に腰を動かしていた。

「あんっ」

不意に村紗船長のキュウリが魔理沙の股間に当たり、魔理沙から吐息が漏れた。

「あんっ」

キュウリが魔理沙の股間に当たつた衝撃が村紗船長に伝わり、今度は村紗船長から吐息

が漏れた。村紗船長は思わず腰を浮かせると、再びキュウリが魔理沙の股間に当たつた。

「あんっ」

その刺激が村紗船長に伝わり、

「あんっ」

「あんっ」

「バシッ！」

「いててて」

魔理沙の頭に激痛が走つた。

「いいかげんにしなさい！。船長が瀕死の重傷を負つてるのに。真面目におしっこしなさい。満月の夜だつたら殺してやるぞ！」

プリズムリバー3姉妹が常識人だと思つて連れてきた上白沢慧音が頭突きを食らわせた

のだった。彼女ならおしっこで洗うなどという方法を馬鹿げていると一蹴してくれると

思つたのだが、ダメだった。同じく常識人として連れてきた射命丸文も、写真を撮っているだけでしゃべらない。そんな卑猥な写真を新聞に載せたら発禁処分をくらうだろうに。

永琳は魔理沙のスカートをめくつた。魔理沙の細身の尻があらわになった。スカートで

放尿姿を隠すことができなくなった。

「髪の毛は多いのに、下の毛は少ないのね」

永琳は魔理沙の股間に顔を近づけ、放尿する姿勢を指示した。

「変な方向に飛んだらもつたないわね」

永琳は魔理沙の股間に触れ、割れ目を開いた。ドサクサに紛れてクリトリスも触つてい

る。魔理沙にとっては屈辱である。

「こんなところを霊夢に見られたら、恥ずかしくて博麗神社に行かれなくなるぜ」

「じゃあ、早くおしっこしなさい」

魔理沙の股間の割れ目からちよぼちよぼとおしっこが垂れてきた。

「あんたたち、なにやってんの！」

医務室に勢いよく飛び込んできたのは霊夢と早苗だった。ところが、2人の目の前で魔理沙が下半身を露わにしておしっこをしていた。予想外のできごとに啞然としている間に2人は後ろ手に縛られてしまった。

「おしつこで傷口を洗うなんて馬鹿げてるわ」

説明を聞いて霊夢は叫んだが、永琳は

「うるさい、脇巫女。じゃあ、赤のメインキャラはうるさいから、先に緑のサブキャラにやってもらおうかしら。配管工なら下水の処理はお手のものよね、とうふやさん」

と言った

「私は緑の髪でも、霊夢のサブキャラじゃありません。配管工は違うゲームです。あと、私はこちやです。とうふやではありません」

早苗も怒った。真面目に答える必要もないだろうに。

「じゃあ、神奈子様はこんな時に何て言うかしら？」

永琳は小馬鹿にするように早苗に聞いた。

「神奈子様だったら……。人間の信頼を得るように行動しろと言うはず」

「人間の霊夢はおしつこをしたくないようだ」

「わかりました。神奈子さまのおっしゃるとおり、私がやります」

縄をほどかれた早苗は、自分で袴を脱いだ。

色白の肌と白衣、緑の髪、黒々とした陰毛、そこにいるすべての者がその美しさに言葉を飲んだ。

早苗は村紗船長をまたぎ、腰を下ろした。

永琳が割れ目を広げようとすると、

「自分でやります」

と言つて、茂みの中の割れ目を自分で開いた。クリトリスが激しく勃起している。

割れ目の中身を正面から見ることでできた

村紗船長は、

「こんなきれいな人間におしつこをかけられるなら、もう船長をクビになってもいい」

と、痛みを忘れて喜んでいた。

ところが、ハプニングが起きた。

早苗に大勢の者の前でおしつこをした経験があるわけがない。おまけに、トイレではない場所でおしつこを出すのは、成長した早苗には困難だった。興奮してしまう。股間に意識を集中し、下腹部に力を入れてみると、股間から粘りけのある愛液が垂れてきたのである。これには永琳はよだれを垂らし、魔理沙と霊夢は驚きで言葉を失った。永琳は

「早苗。おまえは神に仕える身なのにえっちなんだなあ」

と声をかけた。

「いやん、神奈子様、助けてください」

早苗は真っ赤になった顔を手で隠したが、それでも垂れ落ちる愛液は止まらなかつた。

しばらくして早苗の股間から勢いよくお

しつこが飛び出した。村紗船長の股間がみるみる水浸しになった。

「永琳。早くきゅうりを抜いて！」

興奮してよだれの止まらない永琳に慧音が慌てて声をかけた。

村紗船長の股間のキュウリの除去手術は無

事終了した。

傷も軽く、すぐに治りそうだった。

早苗は延々と泣きっぱなしで、霊夢と魔理

沙が慰めていた。

ふと魔理沙が

「でも、なんできゅうりだったんだらう？」

とつぶやいた。

「そういえば……」

急に射命丸が話に割り込んできた。

「さっき、河童のにとりがデッキに来て、自分のキュウリがなくなつたって怒っていました」

一同の空気が凍った。そして一斉に射命丸を見た。

「河童がいるってことは近くに水場があるってことだろ！。なんで黙ってたんだ！」

射命丸は全員に押さえつけられ、磔にされた。そして全員に代わる代わる激しくくすぐ

られた。

「おしっこ……、したい……」

トイレに行くことなど許されるはずもなく、射命丸は磔にされたままおもらしをするしかなかった。

ひとり遊び

ハットリ

私は地霊殿の廊下を自室へと歩いていった。広い廊下にはスリッパの音が響く。屋敷には誰もいない。私は日頃、一人で過ごす夜を寂しいと思っていたが、今日ばかりはそれがありがたく思った。こんな姿は誰にも見せられない。

私は立ち止まり、スリッパを深く履き直した。背筋を伸ばし、また歩き出す。小さな歩幅で。しかし足早に力強く。

自室の近くにはトイレがある。部屋に行くには、その前を通ることになるのだが、私は先程から、そのトイレの前を通る瞬間のことを考えていた。私は比較的トイレが近いので、よく部屋に戻る前にトイレに行く。今の状態でトイレに行かないことは本来ならば、あり得なかった。普段であれば、きっと部屋に戻ることにしても、トイレに行くことをばかりを考えていただろう。あるいは今もそうなのかも知れない。頭では部屋に戻ろうと思っても、本当はその手前のトイレに強く意識を引かれている。

そんなことを考えながらも足は進み、トイレは近づく。廊下の角を曲がると、トイレのドアが見える。私は思わず息を飲んだ。

できるだけそちらのほうは見ず、その先の自分の部屋の方向に意識を集中させる。しかし私の体の欲求は否が応でも、その扉の向こうにあるものを想像させる。私はそれを嘔み殺すようにして、扉へ向かおうとする足を前へと踏み出す。

こうして私はトイレのドアの前を素通りした。何か取り返しのつかないことをしたような心地がした。

自室の前に着く。私は急いで中に入り鍵を閉めた。ほとんど無意識に両手がスカートの前の部分に伸びる。私は堪らずに背中を丸めて、その場所を強く押さえた。

「はあっ…」

息と同時に声が漏れてしまった。

そのままの姿勢で脚は閉じたまま、部屋の中央まで歩き、座り込む。そして私は今日の午後の出来事を思い出す。

私がこんな惨めで倒錯的なことをする発端となった体験を。

彼女が来たのは昼過ぎだった。2週間ぶりのことだ。

「よお、さとり」

元気そうな笑顔は相変わらずだった。

「あら、魔理沙さん久しぶり」

私は努めて、普通の来客と同様に接した。

私が彼女の訪問を心待ちにしていたことを、魔理沙は知らない。

「邪魔するぜ」

そういつて屋敷に上がりこむ。

彼女が地霊殿に来るのは格段の用事があつてのことではない。ただ、なんとなく私を訪ねに来るのだった。旧都では皆、私の能力を忌み嫌い、近づこうとする者などいない。こんな接し方をされるのはどこか拍子抜けなようで、それでいて悪い気分ではない。いつしか、私は魔理沙と会うことを何よりの楽しみとするようになった。

私は今日も紅茶とお菓子を用意して彼女をもてなす。私の性分のせいもある、同じティーブルでお茶をしても多くの言葉を交わすことはない。彼女もそれをわかっていて落ち着いた様子で紅茶を飲んでいる。居心地は悪くない。それは幸せな一時だった。

しかし、程無くして私は自らそれを壊す。第三の目を凝らし、彼女の心象の中深くを覗き見た。近頃、魔理沙が来る度にこうしている。それは平生から私が自ら禁じている後ろめたい行為。親しく接してくれる魔理沙を裏

切ることももある。自らの卑劣な行為に対して嫌悪感が募り、吐き気さえ覚える。それでも私は何故か、彼女にだけはこうせずには居られない。

彼女の心象の中、私は見たくもないあいつの顔を執拗に探した。たった2週間の記憶の中に多くの場面が見つかる

アリス・マーガトロイド。魔理沙の恋人。

すぐに、服をかけたアリスの姿が見つかった。つい2日前、彼女はアリスと肌を合わせたらしい。

カップを片手に魔理沙が上目遣いで私を見た。引きつった表情をしていた自分に気づく。私は目を逸らして紅茶を啜り、気分を落ち着かせようとしたり。熱い紅茶が胃に収まり、息を吐く。クッキーを摘んで齧る。そしてティーブルの下の第三の目で再び窃視を始めた。

こうして見た心象は、夜の慰みの糧になるのが常だった。

他の誰かに向けられた言葉を自分への囁きと思ひ込み、虚空に愛しい人の名を呼び、その腕に抱かれるつもりで自ら慰める。酷く寂

しい愉しみ。そう分かっているもやめられなかった。

彼女達は時々、やや特殊な遊びをすることがあるのだが、たいてい私はそれも真似てみる。一度、自分で自分を縄で縛ってみたことがあった。あれは本当に虚しかった。思い出すと可笑しくなってしまう。しかし今もこうして同じことを繰り返している。今日見た心象の中で、アリスはトイレに行くことを禁じられていた。尿意に震えるその肢体を、魔理沙は愛しく思った。それは、私に向けられることの無い感情で、羨ましかった。

魔理沙が帰った後、私は少し尿意を覚えたが、トイレには行かなかつた。出不精な私はトイレを我慢することには慣れていない。下腹部に不快な感触が満ちるのに長くはかからなかつた。気づけば意識は尿意に支配され、トイレに行くことばかりを考えるようになった。

それにしても、少し我慢し過ぎた。尿意がここまで激しく執拗に下半身の神経を苛むものとは思つても見なかつた。考えて見れば、ここまで尿意を我慢するのは初めてかも知れない。先程から、尿意を落ち着かせようと股

間を強く押さえ、下腹部を刺激せぬように静かに座っているのだが、波が押し寄せては私の腰を揺さぶる。

私は半ば慌てるように、昼間見た心象を妄想の中でなぞり始めた。

その夜、魔理沙はアリスを家に連れ込んだ。アリスは玄関に入る時には既に前屈みになっていた。魔理沙は昼前からずっとアリスがトイレに行くことを禁止していた。私よりも我慢に慣れているのだろう。もし、自分がそんなことをされたらどうなるか分からない。下腹部には昼過ぎからの尿が溜まっているが、これだけで苦しくて仕方が無い。これよりも激しいものを魔理沙に強要されることを想像すると色々な意味で気が遠くなる思いがする。

アリスは腰をくねらせ、魔理沙に哀願する。

「ねえ魔理沙お願い、もうおトイレ行かせてえ……」

扇情的とも思える仕種に魔理沙は興奮し、笑みを浮かべた。

私もその仕種を真似てみる。尿意を押さえ込みつつ、無理に立ち上がる。股間に寄せた手は彼女のように添えるだけとはいかず、強

く押さえてしまう。姿勢も前屈みというよりは、体をくの字に折り曲げるような不恰好な形になってしまった。さらに彼女を真似ようと、幾分か痩せて骨ばったお尻を可愛らしく揺らしてみようと試みたが、これも適わなかった。尿意を堪えながら腰を動かそうとすると、悶えるように激しく動き、時折硬直するだけの可愛げの無い仕種になってしまった。アリスは上目遣いで魔理沙を見つめる。一方、下を向いてもがく私はきつと必死の形相だっただろう。

そんな自分の姿を想像すると、魔理沙の想い人に自分を重ね合わせるのは気が引けた。しかしすぐに空想の世界に立ち戻り、魔理沙を見つめた。

「ねえ、魔理沙……」

勇気を振り絞って口に出した言葉は途中で消えてしまった。

下腹部が疼く。言わないわけにはいかない。

「お願い、もうおトイレええ……」

最後まで言い終えぬうちに尿意の波に襲われた。

堪らずに座り込む。湿った圧力がおしつこの出口に押し寄せる。それを通すまいと必死で締め上げる。幸い、下着の中に溢すことは

免れた。

魔理沙は目を細めて微笑むと、穏やかな口調でゆっくりと答えた。

「だめ」

アリスは足踏みを速める。

「もうー魔理沙のバカ、変態……!!」

一方私の下腹部には、そんな他愛の無いやりとりをする余裕など無かった。

いつの間にか溢れそうなおしつこが溜まっていたことに気づく。

私はふと我に返った。尿意の我慢は何気なく始めたことで、アリスが魔理沙の前でしたように着衣のまま失禁する覚悟は私には無かった。しかし今や私は、その惨状の瀬戸際にいる。いつトイレに行くかは考えていなかった。部屋の中で無事に放尿を済ませられそうな場所など無い。トイレは部屋のすぐ近く。今ならまだ間に合う。

しかしトイレに行くのは嫌だった。空想の中の魔理沙は私を見てくれている。トイレに行ってしまったら、また一人になってしまう。私にはそれが耐えられなかった。

結局、私は結論を先延ばしにした。本当の限界まで、彼女に愛されたい。大変なことに

なる前にトイレに駆け込めばそれでいい。

私は急いで、記憶に焼き付けた心象の映像を早送りする。行き着いたシーンは、アリスが床にうずくまり小さく震えるシーン。私と良く似た姿勢だ。

魔理沙は、彼女の限界に近いことを知っていた。

「ほんとにおしっこ漏れちゃう、早く、トイレ…!!」

彼女の言葉に合わせて私も呟く。

魔理沙は興奮のあまりに手が震えるのを感じた。引きつった笑みを浮かべてしゃがみこみ、アリスの顔を覗き込む。

「だーめ」

その言葉にアリスは目を細めて涙を浮かべる。

「そんな、酷い…もう…ああっ…」

再びアリスと同時に声を上げる。

魔理沙は「漏らしたか…？」と内心で呟いた。

彼女の勘は当たっていた。

程なくしてアリスのスカートの前部分が黒く染まる。

それはみるみる間に広がり、やがて床に付いた膝の間から水溜りが広がり、生暖かい匂

いが仄かに立ち込めた。

アリスはうつむいて身をこわばらせて動かない。

その姿に、私も急激に尿意が高まるのを感じる。先程よりも遥かに強い圧力で、溜まりに溜まったおしっこが尿道から飛び出そうとする。私はここに至って初めて、おもらしの恐怖に気づいた。トイレに間に合わずに下着を穿いたまま、おしっこが出てしまう…

そんな惨めなことになるわけにはいかない。スカートの下から手を入れ、下着の前の部分を力いっぱい押さえる。最後の力を振り絞って尿道を締める。下着の中に熱いものが少量滲み出る。

もう駄目だ、限界だ。おもらししてしまう。

トイレに行かなければ。

私は慌てて無理に立ち上がった。その拍子に下着の中が一気に熱くなる。かなりの量をちびってしまった。指の間から雫が落ちる。

今からトイレに走れば、殆どのおしっこが便器の中に収まる。下着と床は酷く濡れるかもしれないが、おもらしだけはせずに済む。

早足に部屋を出ようとすると、先程までの空想の続きが脳裏を過ぎった。

魔理沙は、おしっこを漏らしたアリスの姿を見て、興奮を抑えきれずに、服が汚れるのも構わずに水溜りの上に彼女を押し倒し、強引に唇を奪った。

足が止まった。

トイレに行くことなど出来なかった。

私はその場に座り込み、体を丸めた。一番我慢のしやすい姿勢。しかし、そう長く耐えられるはずもない。

尿道に力を込める。自分がこれからどうなるか、知っていたにも関わらず、最後の抵抗をした。

再び、染み出るようにおしっこが流れ出した。止めようにも、もはや力が入らない。なおも必死で押さえると、二滴の雫を床に落とした後に止まった。

最後が訪れたのは、その直後だった。

体全体が引きつるように震え、おしっこの圧力が今までに無く高まる。もう力が入らない。

おもらしをしてしまう…

下着の中が熱くなった。

何が起こっているのか、分かっているはずなのに、理解できなかった。

抵抗することなどできず、尿道を通り下着の中を満たす熱い液体の感触をただ確かめた。

再び体が引きつり、お腹に力が入る。下腹部の感触は激しくなり、下着の中では熱いものが渦を巻き、お尻の方まで広がっていった。

下着から溢れ出したものが床に落ち、股の下で音を立て、水溜りが広がる。

水溜りは膝を濡らし、靴下に染み、微かな匂いを立ち込めさせる。

日頃からトイレで嗅ぐあの匂いを。

やがて熱い液体の奔流は止まった。

あれほど激しく私を苦しめた尿意は既に無く、その代わりに下着に染みだした生暖かい水と、おしっここの匂いがあった。

水溜りは白い靴下を仄かな黄色に染めていた。

おもらしをしてしまった。

こんな筈ではなかったのに…

涙が溢れそうになった。しかし、再び空想の続きが過ぎる。

魔理沙は私の惨めな姿に夢中だった。

恥ずかしい水溜りの中、私の膝に自分の膝を付き合わせ、私の顔を覗き込む。

何をされるのかは分かっていた。思わず目を伏せる。

そのまま私は、床の上に押し倒された。濡れた感触が腰に広がった。

「まり…さ…」

私は泣き声のような小さな声を上げ、目を閉じて虚空にすがりつき、舌を絡めた。

下着に手を伸ばす。

前の部分を握り締めるとおしっこが染み出す音がした。

何度も握り締め、音を響かせる。

やがて私は声を上げて、先程とは違う液体で下着を汚した。

目を開けると地霊殿の自室の天井が映る。

体の下には冷たく濡れた感触があった。髪まで濡れている。状況を理解するのに時間は掛からなかった。後始末をしなければならぬと思った。

立ち上がるとスカートが脚に張り付き、背筋と股下に冷たい雫が伝うのを感じた。

「……どこが？」

「暇なこと」

「魔女舐めんな。あと巫女も舐めんな」

人生を舐めている巫女である。

「あんたも霖之助さんみたいに道楽商売して
るだけでしょ」

「あれと一緒にするな。こーりんは食わなく
ても死なないけど、私は死ぬ。命懸けだぜ」

色々なところに飯をたかりに往く少女が何
か言った。

そんな魔理沙に溜め息一つ返して、霊夢は
顎に人差し指を添え空を仰ぐ。

「それ以外なら、魔法使うところとか」

「魔法？ お前のは巫術まじゅつだろ」

またも眉間に皺が寄る。気になる発言はグ
レイズできない性格らしい。

「良いのよ。根っこは同じなんだから。単に
呼び方が違うだけよ」

「え、そうなのか？」

聞き覚えのない断言に驚きと関心を込めて
魔理沙が話に食いついた。

「ええ、そうよ。旧作的には」

「メタ発言すんな」

パラレルなワールドは棄却された。

軽く自身の論を否定されたが、巫女は少し

も気にした様子なく、ただ魔理沙の瞳をじつ
と見る。

「まあなんにしても、尿に巫女だのなんだの
なんて関係」

「そんなことはどうでもいいんだ！ 巫女の
尿が必要なんだ。神聖で新鮮な処女の尿が！

霊夢の処女の尿が！ 処女の！」

急な駄々っ子。

「やっかましい！」

「うっっ！」

対する制裁はかかと落とし。

石頭と鋼鉄の尻を誇る魔理沙にしても、さ
すが全体重からの一撃はキツかった。復活ま
で三十秒掛かった。

「言うことが段々と卑猥になってるわよ。と
いうか、私が処女じゃなかったら駄目ってこ
とじゃない」

「え、だって処女だろう？」

純真無垢な目で首を傾げつつ問う。

霊夢が処女でないはずがあるうか。いや無
い。とまあ、そういう意見。

しかし、霊夢は僅かも顔色を変えず。

「さあ」

意味深なはぐらかし。

その言葉に魔理沙は戦慄した。

「……!? まさか、お前、違うのか!?」

「さあ」

少しにやついてはぐらかす。答える気が無い。

「いや、馬鹿な、だって、それは私のだ！」

かかと落としが決まった。

「どういうことだバカタレ」

「うぐぐぐ」

同じ場所にヒットしたので痛みが増した。

潤んだ目で見上げる魔理沙には、小動物的
な何かが宿っていた。が、そんな雰囲気は吞
まれるほど博麗の巫女は甘くない。

「あんたにあげる純潔はない」

「地味にダメージ強いなその科白」

諭たまえその気がなくても地味に痛い一撃。そ
れが霊夢なら尚更だ。

肉体と心が踏まれて蹴られた気分の魔女。

それを見て、既に幾度目かの溜め息を投げ掛
ける。

「それに巫女なら早苗がいるじゃない」

「あいつ人と神の混血だろ。人じゃないじゃ
ないか。それに処女じゃないだろ」

そこに一切の淀みはない。

「何やら失礼な決めつけが聞こえましたか」

すたりと足音がして、現れるもう一人の巫女。

「お、風屠ふうずり」

「できることならば風祝でお願いします。こんなにちは霊夢さん」

「こんにちは早苗」

早苗は穏やかな笑顔で二人を見て、何故か頭部を押さえている魔理沙を見て何か悪いこととしたのだろうかと思うと考えるのをやめた。今はそんなことに興味がないのだ。

しかし、魔理沙はそうでもない。

「なあ、早苗は処女か？」

真つ向から気になったことを問う。その瞳は真摯である。

問われてきよとんとした風祝は、こほんとか払いしてから、にこりと微笑む。

「人は歴史を重ねているんですよ」

「……どう捉えれば良いんだ」

二択のハズが随分と深みのある回答によって覆い隠された。

他人の膜の有無に翻弄されて頭を抱えている黒と白の魔女に、紅と白の巫女は首を傾げる。

「そういう魔理沙はどうなのよ」

びくりと震えて、一旦止まる。

そしてぶつぶつと唱えながらじつくり考え、やがてキリッと真剣な目で霊夢を見た。

「……破れてなければ処女だ」

「何をした」

問いは奇麗に重なった。

二人が同一の疑問を抱く一方、曖昧な返答をした魔理沙は頬を紅くしながら頭を振る。振る。振る。帽子が吹っ飛ぶ。拾う。そして深呼吸。

「ええい、膜はどうでも良い膜は！尿道とは別の穴だ！尿を超越せ！」

「処女の、じゃなかったのか！」

気を落ち着けの一言があまりにあまりだったので、巫女もついつい吠えてしまう。

「そこは巫女つぼさを強調しただけだからどうでも良い！」

どこまでも素直で正直な魔理沙。

「てい」

清々しいまでに嘘のない言葉には感心しつつ、霊夢は首筋に針を打ち付けた。急所直撃。

「あふん」

何かが開花しつつあった。

若干甘い悲鳴を上げつつ沈没した魔理沙を早苗は横目で見つめながら、何気なくその顔末を訊ねる。

「何やら随分と賑やかですね。なんだったんですか？」

「なんでもないわ。久し振りに魔理沙が馬鹿

になっただけよ」

「そうなんですか」

そして興味を失う。元々ほとんどない興味が、泡のようにふと湧いて割れただけであった。

「で、早苗は何の用？」

「はい、えつとですね。神事に使うので」

もの凄く嫌な予感がした。

「霊夢さんのおしつこを頂きたいなあ、なんて」

「そおい！」

「きゃー！」

神技・エアちゃぶ台返し。

説明しよう。エアちゃぶ台返しとは、さも

ちゃぶ台をひっくり返している様な雰囲気

全身から気合と共に発することにより、周囲

の人間が存在しないちゃぶ台の衝撃を精神的

に受けてしまう奥義である。

「帰れ！」

「そんなあ、コップ一杯で構いませんから」

「多いし。っていうか自分とこの神事でしょ、

自分のをいなし、待て、どんな神事だ」

ツッコミの最中に大本がおかしいことによ

うやく気付いた。

すると早苗は指を立てていいですか、と話を始める。

「蛙の面に小便と言いました」

「それは神事じゃない」

「蟬の小便という言葉が」

「それは行事じゃない」

「小便横丁という場所が」

「それは通称ってええいもう小便が付けばいいってもんじゃないのよ！」

「きゃー！」

二度目のエアチャップ台返し。

悲鳴を上げつつ、へなへたと早苗は伏せる。

けれどすぐに起き上がる。精神力があるか、あるいは相手の話を聞かない相手にはこの技の効果が薄い。

「こほん。正しく話しましょう。陰茎の形を

したミシャグジ様を奉るにはですね」

「え。そういう形なの？」

「しまった、さすがにメガテンは通じなかった」

冗談を出す相手を間違えたらしい。

少し悩んでから、今のが冗談だと霊夢が気

付いていないであろうことを予測し、早苗は

何の説明もなく話を変えることにした。

「霊夢さん、尿とは清いものなんですよ」

「どんな理論よそれは」

何がどうすればそうなるのかと霊夢は訝し

げな目で早苗を睨む。

対する早苗は、甘いですよと指を振って見せた。

「いえ、本当の話です。ヒンドゥー教という教えが日本の外の国の一部にありまして、ここでは牛の尿は聖なるガンジス川と同等なほど清く、井戸を浄めるのにも用いられるんですよ」

「そもそも前提が信仰に由来するから私には関係ないわ」

宗教由来の安全は決して信じる気になれない神職者である。一方で宗教由来の安全性を説く巫女もまた、他教の教えにある安全性を信じる気はない。

しかし、早苗は言う。

「でもですね、インドの方々はその尿を飲んでるんですよ」

霊夢の背筋に雷が走った。

飲みたくない。浴びたくもない。そもそも触れたくない。

そういう気持ちが増速していく。

「早苗……あなたはその川や牛の尿飲める？」

「私、ミネラルウォーターしか飲めない体質なので」

「今すぐに外の世界へ帰れ」

ピツと何処かを指差す。ふと霊夢が管理者

であることを思い出した早苗は、追い出されては敵わぬと手を振って敵意のないことを伝える。

「あ、えっと。で、でもでも、古来より歯を漂白するものとしておしっこが使われていたそうですよ」

「尿の有効活用方法はどうでもいいのよ。試す気もないし」

歯磨きへの使用は遠慮願いたい。

「そうでした神事でした。そういうえば、神様のおしっこから神が出たという歴史もあるんです、弥都波能売神とか和久産巢日神はイザナミのおしっこから生まれました」

何故この巫女ここまで小水に関して博識なのだろうか。

「それがあなたの神社の二柱と関係あるの？」

「神様皆兄弟」

「なら神様の尿で事済ませ」

「ああんつれないこと言わないでえ」

縫る。

「暑い放せ！」

「だめえ、おしっこ出すまで放しません！」

「てい」

「うきやん」
眉間に針状の何かが突き立った。

結構痛かったらしく額を押さえつつ針状の何かを引き抜く。

「顔に傷が残ったら貰ってくださいね」

「異性に言いなさい」

痛み故か潤んだ瞳に、僅かゾツとした。

そこですくりと魔女が起き出す。

「早苗。今は協力すべき時だ」

「はい？」

きょとんと小首を傾げる。

「私は霊夢の尿が欲しい」

「あ、私です」

一瞬火花を飛ばし合ってから、同志よと二人は手を握り合う。

「エアちゃぶ台返し。だが回避。」

「霊夢、これを見ろ！」

「魔理沙さん、それは！」

それはガラス細工。流線型の形状が美しい、透き通る芸術品。

その名も、尿瓶。

「てい」

札でガラスを粉碎するという芸が披露される。

「ああ、折角買ったのに！」

「買うなそんなもの」

香霖堂でセール品扱いだったそう。

「大丈夫です。私ビニール袋持ってきましたから」

「そんなのにできるか！」

見事に透けている。あれに液体が溜まったらさぞ丸見えだろう。

しかし、それで構わぬと守矢の巫女と白黒の魔女は言う。

博麗の巫女は臨戦態勢。

睨み合つて数秒。

途端、放たれる魔法。霊夢は回避したが、

次の瞬間伸びる早苗の手。スカートが掴まれ。

「いっ！」

すぽんと抜けた。

「おおおお！」

喝采が上がる。そしてバランスを崩して霊

夢が落ちる。

「つう、あいたたた」

スカートの下に布が存在しなかったことに

早苗は大いなる衝撃を受けて鼻腔より紅き情動を滾らせた。

そんなこと百も承知な魔理沙は、今こそ好

機とビニールを持って駆ける。

しかし、霊夢に尿意はない。

「あ、あんたらねえ」

さすがに恥ずかしいのか、頬が紅い。

「さあ、準備はできた。この袋に！」

「あふう」

既に目覚めてしまったと思つて良いかも知れない。

このままでは早苗と魔理沙の一方的敗退。そう思われた時、奇跡が起きた。

「ん」

突然の尿意。下半身露出状態において、腹が冷えたのである。

「魔理沙さん！」

「おおおおお！ 今なら私は神を信じる！」

特攻。

前蹴り。

吹っ飛んだ。

「……早苗。良い夢、見たぜ」

「魔理沙さああああん！」

寸劇が起こった。

やれやれと二人を見ながら、スカートを拾い上げ、穿くでもなく縁側に昇ろうとしている。

「廁行ってくる」

「！」

早苗はその言葉を聞いた直後、御幣を振るった。

「え、きゃあ！」

まさかのおしっこ合同誌……ッ！

はじめまして！
おしっことかう○ちとかその他もろもろ、とにかく汚いものが好きな Kanchela です。この度はお声をかけて頂きましてありがとうございます！
ありがとうございました！
普段からアリスのおもらしぼつかり描いている気がします。仕方ないだろッ！カワイイからッ！特に最近はいよいよ汚い絵ばかりしか描かなくなって微妙に肩身が狭かったりも……こういう場を頂けて本当に感謝です！
それでは、またどこかでお会いしましょう。

Nijusei

Kanchela

Kanchela / ^{ニジュウセイ}廿世

URL : <http://kanchikinps.web.fc2.com/>
pixiv : 31307

自分も結構好きなので。産廃が、最近の居場所です。もっと描こうぞ！

どうも、あすびなです。
ほとんどの人がはじめましてになるかと思います。おしっこの合同と言う事で、自分のお嫁さんのさとりに、おむつでおもらしして貰いました。妖怪を動けなくする薬云々で、体の自由がきかなかったのでしょう。おむつだけでも恥ずかしいのにおもらしをしてしまい、その上相手の思考が読めてしまうという羞恥。でも動けないのだから仕方ないね！
・・・完全にセクハラですね。サーセンwww
また皆様とどこかでお会い出来たらいいですね。pixiv にいるので、見かけたらよろしくです。

あすびな / none

URL : unknown
pixiv : 1283146

そのセクハラがトラウマになって、次のセクハラ材料になりますね！

素敵な合同誌に御誘い頂きありがとうございます。

「おむつでもいいの？」「むしろおむつで！」のやり取りに、嬉しく参加させて頂きました。

おしっこをしたら誰かの手を借りなければいけない、おむつをあてた子の恥じらいに可愛らしさを感じずにはいられない。

そんな皆様のためのおむつ専門サークル「布と紙」のシュージでした。



シュージ / 布と紙

URL : <http://babylookportal.hobby-site.com/>
pixiv : 50306

おむつは放尿とおもらしの架け橋的存在なので、実は無いと困ります。

どっとあーる / none

URL : <http://dot-r.net/>
pixiv : 237026

見るなど言われたら余計見たくなくなります！そういうもんでしょ！

作者紹介と後書き

右の四角は主催と副主催からのコメントです。

No image

おしっこときいた瞬間に
なぜか守矢一家が
出てきました。

諏訪子様は毎日
おもらししてるに違い
ありません！
早苗さんも
つられて
おもらし！！
…したら
いいなあ



とりちよ / 居酒屋とりちよ

URL : unknown
pixiv : 155830

諏訪子様は、たぶ
ん座布団を急いで
片付けなければな
いと思うよ！

飛び入りで参加させていただきました
おむつサークル布と紙のセイです。

本当はオムツ絵が描きたかったの
ですが、いきなりの参加決定だっ
たので新規の絵を描く余裕が無く
前に描いた絵での参加になりました。

尿とおむつは非常に深い
関係にあります、おむつ
も尿も最高です！



セイ / 布と紙

URL : <http://babylookportal.hobby-site.com/>
pixiv : unknown

それでは次回はお
むつでお願いしま
す！

はじめまして、こんばんわ。
みなさんもうします。
普段は「Snow Ice」というサークルで
活動していますっ(じよは~
東方尿同誌とのことと今回早苗さんの
ny…けはぶっ！
どこでもがしどこでも私は宣言しますが
「おもらし派」です！

みさな / Snow Ice

URL : <http://www.k2.dion.ne.jp/~minasami/>
pixiv : 5354

主催 : 私も！
副主催 : 俺も！

ちかど / none

URL : unknown
pixiv : 488651

たぶん行きます！
自分は三次元の尿
系DVDは10枚くら
い持ってます！

お、今回はお誘いありがとうございました。

いつからだろう？
こう、何と言うか…「おもらし」にときめきを感じるように
なったのは…w
ああ…アバイなあ…俺、と思った時には

すでに手遅れでしたとき！！

しよ、この事件は私のある性癖のうちの
一つです…

葦月

葦月 / 月光琵琶

URL : <http://oumanotoki.web.fc2.com/>
pixiv : 173726

他の性癖を予想
副主催 : 触手？
主催 : セーラー服？

素敵な合同誌にお誘いいただき嬉しい限
りです

はじめましてれなと申します(´▽`)ノ
こういった経験は初めてなので正直どん
なこと書いたらいいのか悩むところですが、
てゐのおしっこ飲みたいいいいいいい
いい(蹴
おしっこ最高！

れな / すくりうむ

URL : unknown
pixiv : 330853

大胆な放尿！彼女
なら、飲ませてと
言えば飲ませてく
れますよ！有料。

2回もお呼びいただきましてありがとうございました。
 普段描きませんが、
 うどんげは大好きなキャラなので
 描けて最高に楽しかったです。
 もちろん、輝夜も好きですよ！
 おもしろいは心のエネルギーです！！

ふりかきくださいました。



あらりい / くりいむちいず

URL : unknown
 pixiv : 2002364

てあのノリようが
 すさまじいですね。
 採取した尿の行方
 は。



こんな風に
 フランちゃんのおしっこが飲めたら
 日本は今より
 平和になると思う

紅白のかまぼこ / none

URL : unknown
 pixiv : 1117226

ということは、日
 本を平和にすれば
 フランちゃんのお
 しっこが飲める！

No image

お誘いいただき本当に
 ありがとうございます♡

はじめまして、水元てうと申します！
 ステキすぎる合同誌に参加でき
 幸せでございます。

妹紅は竹林をうろうろしていることが
 多いと思うので、見つけたら
 ひっそり追いかけ隊。

pixiv 799472
 twitter hakomonotown

ちゃむぺい / あるちゃーむ

URL : <http://members.jcom.home.ne.jp/arucham/>
 pixiv : 18907

ひじりんといっ
 しょにおふろには
 いたい！！

水元てう / ハコモノタウン

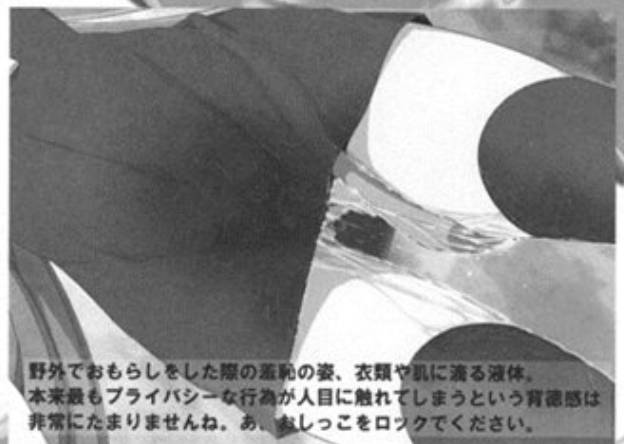
URL : <http://esd1room.blog48.fc2.com/>
 pixiv : 2051146

追っかけてるとき
 はヘブン状態です
 けど、その後は消
 し炭にされます！

お誘いいただき本当にありがとうございます！

今回は文ちゃん秘蔵のトイレO撮ビデオという
 設定で描かせていただきました。
 僕自身、トイレでおしっこする女の子の姿が
 大好き(特に和式！)なので、その思いが少しでも
 皆様に伝われば嬉しいです。

モラスーワ！(鳴き声) それではまた！



野外でおもらしをした際の羞恥の姿、衣類や肌に流る液体、
 本来最もプライバシーな行為が人目に触れてしまうという背徳感は
 非常にたまりませんね。あ、おしっこをロックください。

のーびる / none

URL : unknown
 pixiv : 796347

pixiv行くと、木製
 の廁のイラスト多
 いですもんね。旧
 和式は僕も好き。

大嘘 / 嘘つき屋

URL : <http://usotukiya.com/>
 pixiv : 457541

主催、副主催とも
 に、ぬえちゃんに
 はおもしろしが似合
 うとの意見です。



ク+
ツ索こが
本検とのす
エであるうま
フ猫すい出

ゆからんのすけ

ゆからんのすけ / none
URL : unknown
pixiv : 1853124
出てきました。藍も出ちゃいましたね。登って掃除が大変ですよ。

今回も参加させて頂き
ありがとうございます。
今度こそエロいのを描こうと
思っていたのですが・・・



すいませんでした。

天川銀河 / 銀。-Silver Ring-
URL : <http://amagin.okitsune.com/>
pixiv : 15298
僕もヤマメちゃんの尿飲みたいなー。超飲みたいなー。のみたいー。

寒いと手洗いが近くなりますよね。

本文では成人向けのシーンがなかったのだからで失礼致しますね。

秋庭かな@かな屋敷
<http://knysk.blog45.fc2.com/>

って文字が邪魔ですね = ω =



だからおもらしは素敵だと何度言ったら・・・

水分補給も
大切にな!



ありがとうございました! 春日雪人

秋庭かな / かな屋敷
URL : <http://knysk.blog45.fc2.com/>
pixiv : 891021
ええ、非常にコメントが邪魔です。今度コメント無し送って下さいよ。

春日雪人 / ほしのはて
URL : <http://hoshinohate.com/>
pixiv : unknown
何度も言われたので第二弾です。補給した水分でもらす、循環社会。

いやだから。
尿属性じゃないって。
二次元はトイレに行かない派だって言ってるじゃないですか～ヤダー!

ハイハイ腐女子腐女子がお☆ゆん

がお☆ゆん / Brad-nyxx
URL : unknown
pixiv : unknown
幻想郷の温泉はロマンですね。是非とも残り湯を一杯頂きたいと思いました。



おめでとうございます!
合同誌発行
菊苅モンジ / 1569
URL : <http://yaplog.jp/namenomoto/>
pixiv : 824331
おねしょは、してる最中も、隠蔽工作中も、発覚した時でもいいですよ!

インドで牛の尿入りドリンクを発売するとかしないとか。飲みたくないな。でも慧音先生のなら飲む

妄想を発表する機会をくださりありがとうございます。

きっとキャラたちは家に帰って快樂の種に手を伸ばしたことでしょう。

村紗船長の立ッション姿、早苗さんの放尿姿、見てみたいです。

(私も本業は音楽サークルです)

大崎屋平蔵 / 御祭長屋

URL : <http://ozakiya.blog.shinobi.jp/>
pixiv : unknown

ビニール袋っていいよね。泡立つところが見えるんだぜ。

かずひろ / 快樂の種

URL : unknown
pixiv : unknown

ほぼすべての尿要素が詰まって夢だね！早苗さんのは僕も見たい。

幻想少女たちの尿考察簡易版

中雑魚酒菜

さあ、話をしよう。幻想少女たちのお花摘みの、秘められし真相を解き明かすことをば。こんにちは。この合同主催の中雑魚です。本来でしたら誰にでも自信をもってお送りすることが出来る私の自慢の妄想小説がこの合間に載る予定でしたが、一部の作家さんたちが尿に対する愛を表現するのに悩み苦しみ、原稿を落としてしまったり、落としたと思っただ方が、まさかの締め切り二週間後に提出してきたり(内容が素晴らしので不問)、さらには副主催のハットリに後書きを書くように言ったら、まさかの2,663字の長文を送ってきたりと、自分の小説載せるスペースになっちゃったよ畜生！2,663字とか後書きの分量じゃないからさ!!

という経緯がありまして、それなら新たに、ちよつと歴史的、文化的な資料を基に、幻想郷における、幻想少女たちのおしっこ事情について簡単に考察するのはどうかと思っただ次第であります。あ、前文で一段使っちゃった。それではどうぞ。

さて、まずは幻想郷の時代考証をせねばなるまい。博麗大結界が出来たのが、明治17年から18年の間、つまるところ1884年から1885年の間である。日本では、秩父事件や、日本銀行が紙幣を発行し始めた頃であり、アメリカでは、落雷を受けたデロリアンがタイムスリップしてしまった年である。

幻想郷がこの当時の文化、風習を残しつつ、西洋妖怪がもたらした文化や、外の世界で忘れ去られた文化が適度に混ざって現代の幻想郷が構築されているという前提の元に話を進めることとする。

まず、日本女性の排尿に関して、面白い文献がいくつか見つかる。

まず、江戸時代の西、京都の方では、女性には外の各所に設置された桶に立ち小便をするのが普通であったと言うことだ。身分の高い女性までがおしりを後ろにつきだしてするさまは、江戸から来た人々を驚かせたそうだ。また、江戸は江戸でも農村などでは屋外での立ち小便は普通に行われていたようである。

一方江戸では「江戸の女子は暗闇といえども途次にては決して出恭せず」（途次＝外出先）と言う記録が残っており、野掛（外に遊びに行くこと。ピクニック。）の時は「春の野に廁尋ねる女連れ」という川柳が残っている。

江戸気質な小町などは、渡し賃の少ない霊を運ぶのに苦勞するのではないか。また、人間の里が江戸に近いなら、阿求が幻想郷縁起の調査の為に外出したときなども、色々と妄想の源である。人里から外れば、例えば風神録の神様たちや河童、バカルテットなどは、普通に人前（？）でしてるはずである。

明治41年に福岡県の教育者が「女学生の立ち小便の廃止」という議論をしている記録を見ると西の方では、野外放尿が常識的だったのは確定のようだ。夢のようだ。なので、人里が西よりの設定にすれば一ね先生とかもこたん辺りも、うっは!!

それでは次は博麗の巫女さんだ。

神社では、お賽銭を稼ぐために綺麗な巫女さんが千早を纏い神楽舞いを踊る。千早というのは、袖が縫い合わされておらず、紙縫で繋がった巫女装束のことである。まさに霊夢。

さて、霊夢が賽銭を稼ぐためにこの行事をやっているとすると、以下のような川柳二つが参考になるのではないか。

千早脱ぎ捨てて小便に駆けて降り

小便が保ちかによいと男の氣

神楽が終わった後に廁に飛び込む霊夢萌え!! これは普通に早苗さんにも適用されるよね!

命蓮寺などはどうなっているか。

手元にある資料で、高野山の本山の廁が、山からの湧き水を利用した水洗式だったことが分かる。当時、肥は肥問屋が回収に来るのだが、如何せん高野山の頂上なので、流さざるを得なかったようである。しかし、命蓮寺は人里に近い設定なので、人間の里の肥問屋が普通に回収に来ているものと思われる。

この理論を適用させれば、割と幻想郷の廁があるところでは水洗式ではなくくみ取り式であろうと思われる。

妖怪の山の廁は高野山式でおそらく水洗であろう。

さて、話は突然ヨーロッパに移るが、ルイ14世が納めていた頃のフランスでは、トイレ

など行かず、室内でそのまま用を足すのが普通だったそう。その為に、ドロワーズの中央は縫い合わせられておらず、スカートが濡れないよう、ペチコートやクリノリンが発達した。庶民は部屋の中のおまるに用を足し、一定量たまったら窓から外に中身をそおいた……という背景上、東方の中で名前がフランス語系のキャラと言えば、騒霊三姉妹とアリスである。三姉妹は名前がフランス語読み、アリスは名字が英語読みだが、明らかにフランス語の綴りなので。騒霊さんとかは結構ルーズなんじゃないかな。ふつうにそおいてそんな気がしません。アリスは魔界出身なので、フランスの文化が当てはまるかどうか怪しいですが、おそらく彼女は肥問屋に引き渡す形で魔法の森を汚したりはしないでしょう。

むしろ、紅魔館とか室内でしてそうだよ。

さて、こんな感じで考察してみました。残念ながらおむつ、おもらしに関する歴史的な資料が上手く手に入らなかった。主にトイレのみになりましたが、楽しんで頂けたら幸いです。

副主催からの無駄に長いご挨拶

ハットリ

こんにちは、東方尿合同二度目の失敗、副主催のハットリと申します。

この度は当作品をお手にとって頂き、ありがとうございます

この合同誌のテーマは至って明確です。尿です。おしっこです。

しかし、おしっこは極めて多彩な姿を以って我々の前に現れるものです。

以下に挙げたおしっこの関するシチュエーションは、同人誌等で描かれるおしっこのあり方を大まかに分類したものです。しかし決してこれだけで全ての表現を包含できるわけではありません。

おもらしはおしっこ表現の中でも最もポピュラーなものでしょう。通常は着衣による我慢限界おもらしを指し示しますが、故意の我慢による限界おもらしのような特殊パターンや、故意の着衣放尿、脱衣状態での我慢限界による放尿など、おもらしの定義から半ば

外れた描写もあります。周囲の目の有無や、我慢を強いられる状況の違いによって分類されることも可能でしょう。

おもらしを絵によって描写しようとするならば、基本的な液体描写の他に、おしっこに濡れた衣服の表情を描けることが望ましく、豊かな表現でありありとおもらしを描くには高いスキルが必要です。また、尿意の波やおしっこの温かさなどの視覚的でない要素を表現することは難しく、例えば私は外尿道括約筋による抵抗の様を効果的に描いた作品を数えるほどしか見たことがありません。

放尿は一般的なトイレでの放尿、野外放尿を始めとして、場所によって、それぞれが違った趣を醸し出します。洗面所、放課後の教室の床、想い人の鞆の中、バケツ、自室のベッド等々、各々が異なる状況や心情、事後の顛末を連想させます。また、我慢の度合いや我慢していた経緯によっても放尿の意味合いは変わるでしょう。抵抗感と尿意のパワー

バランスが異なれば、異なる放尿シーンが生まれます。

おしっこの放物線を好む人は多いですが、これも高度な液体表現が必要となるため、しつかりと描写された放物線は意外と少ないものです。放物線のみならず、直線的に地面に叩きつけられるおしっこも一興。飛び散る様やお尻に伝う様が巧みに描かれた放尿表現も非常に素晴らしいものです。また放尿する少女の心情の緻密な描写は、放尿シーンを特別なものにするものです。

おむつは、おしっこ表現の一部でありながら特殊なジャンルで、おしっこ好きから発展したというよりは、おむつが専門という嗜好の人を多く見かけます。単純におむつを穿いた姿に萌えるという愛でもありますが、おしっこに注目するならば、着衣でありながらトイレに行かずに放尿することが許されるという特殊な状況や、おしっこを吸ってずしりと重くなる様などはおむつに特徴的な現象と言えるでしょう。あおむけに寝かされ、濡れたおむつを剥かれた姿も同じくおむつに特徴的な光景であり、おむつを穿かせられた少女にとっては特別な瞬間です。勿論、幼児退

行も大切な要素であり、おしっここと非常に相性の良い表現です。

飲尿・浴尿は上述のものとは異なり、第三者視点でおしっこを吟味しようとする立場が明確です。また、排泄行為ではなく、純粹におしっこそのものを愛でようとする志向の強い態度でもあります。その楽しみ方には直ぐ、ばんつごし、容器に入れる、着衣等に染みだしたものを愛でるなど様々です。おしっこは五感全てによって味わうことができるものです。肌に浴び口に含めば、その温度、勢い、味は私たちに新鮮な驚きとさらなる性的興奮を与えてくれるでしょう。

尿表現の中でも、最も熱心な愛好者の多い表現がおもしろいです。私自身もおしっこに関する表現の中でもおもしろしが最も好きで、このジャンルに目覚めたきっかけとなった作品も着衣状態での我慢の限界によるおもしろいという王道パターンです。このおもしろいについて多少臆目(ひいめ)に愛を綴らせて頂きたく存じます。

おもしろしの明確な定義は人によって様々ですが、我慢が重要な要素であることは言うまでもありません。

おしっこ我慢とは、自律神経によって不随意に起こる排尿反射(膀胱の収縮と内尿道括約筋の弛緩)と随意筋である外尿道括約筋のせめぎ合いです。これは様々な周辺の状況や、前押さえ、足踏み、踵押さえ等の所作も相まって多彩な描写に堪えるテーマとなっています(そして我々、尿属性の作家は様々な表現法を駆使してこの深遠な対象に向き合わなければなりません)

おしっこ我慢、おもしろしとは自分の筋肉に對して自ら抵抗するという矛盾した現象です(同一生体の中で判断の衝突が解決されず、物理的なレベルにまで至っています)。この矛盾は、あるいは人類が歴史の中で抱えた矛盾と言いうことができるかも知れません。近代以降、人類は自らの肉体を無視し、一方で精神を尊び、いつしかそれを自己と同一視するようになりました。例えば私たちは、容姿を賞賛されるよりも性格を賞賛されたほうが本質的に評価されたと感じます。そんな中で、我々の最も自然な肉体の欲求のうちの一つは、定められた密室の中でのみ充足される

ようになり、それをし損じることは最大のタブーとなりました。

おもしろしは肉体の逆襲です。尿意は人間の理性などお構いなしに、不憚な少女をこの禁忌の渦中に突き落とそうとします。濡れた下着、水溜り、これらは肉体が精神の下僕でないことの証左です。その水溜りの中に跪いて、彼女の震える肩を抱きしめ、下着を洗ってあげるとは、彼女自身も気づかなかつた彼女の半身を受け入れ、愛することを意味します。

こうした側面は他のおしっこ表現にも垣間見ることができですが、特に我慢の限界によるおもしろしにおいて顕著かつダイナミックに現れます。おもしろしが人を引き付けて止まないのは、単にその染みや水溜りが広がる様が美しいからではありません。おもしろしは特別な大事件です。おもしろしは、その失敗にまつわる背景や結末、心情の揺れ動きなど、数々の物語を暗示しています。

おしっこが深遠な魅力を秘めていること。おしっこの表現には多くの可能性があること。それは、理解ある諸兄であれば、このよ

うな気の触れたコラムを読まずとも自明のことでしょう。しかし世の中では、おしっこが主たるシーンのための前菜のように扱われることが多くあります。それがおしっこ、おもしろしと銘打った作品であることも珍しくありません。おしっこはメインディッシュとしての資質を十分に備えています。このような扱いがされることが多いのは事実です。そこで私たちは、この素晴らしい前菜料理の専門店をオープンしたのです。この本が舌の肥えた皆さんの眼鏡に適えば、この上無い幸いです。

東方 Project 二次創作同人誌

東方の尿の合同です。～二度目の失敗～

発行日 : 2010年12月30日 初版

表紙 : どっとあーる

意匠 : 中雑魚酒菜

発行人 : 中雑魚酒菜・ハットリ [ほけんしつおくり]

発行 : 街角麻婆豆

印刷 : パワープリント



原作 : ZUN / 上海アリス幻楽団

街角麻婆豆 ご意見・ご感想・第三弾参加
希望者はこちらまで

サイト : <http://mapoze.com/>

メール : main@mapoze.com

おくづけ

主催の簡素なご挨拶

えーと、こんにちば。

主催の中雑魚酒菜です。大抵のことは副主催のハットリに語り尽くされてしまいましたので、最後の余白で失礼します。

っていうか、前菜料理の専門店ってなんだよ!! ハットリを東京から豊橋に呼びつけ、その晩に尿トークをしながら書かせたらアレだよ。

さて、おそらく第三弾もやると思います。自分も相当ネタがたまってききましたので、次回は自分の作品も載るように頑張ります。

それでは、お手にとって下さり有り難う御座いました。

おしながき

春画の部

どっとあーる (表紙)
Kanchela (強制排尿)
あすぴな (おむつ)
シュージ (おむつ)
セイ (おもらし)
ちかど (放尿)
れな (放尿)
とりちよ (おもらし)
みさな (おもらし)
葦月 (おもらし)
紅白のかまぼこ (おもらし)
水元てう (おもらし)
大嘘 (おもらし)

漫画の部

あらりい (おもらし・尿採取)
Kanchela (おもらし)
ちゃむぺい (浴尿・おもらし)
の一びる (放尿・トイレ盗撮)
天川銀河 (放尿・飲尿)
春日雪人 (おもらし)
菊壺モンジ (おねしょ)
ゆからんのすけ (おもらし)
秋庭かな (おもらし)

文学の部

がお☆ゆん (温泉放尿観察)
かずひろ (放尿・浴尿・おもらし)
ハットリ (尿意我慢妄想おもらし自慰)
大崎屋平蔵 (尿採取・奇跡・恵みの雨)
中雑魚酒菜 (幻想郷尿事情文化的考察)